

Ⅳ 分析結果

(1) 男女共同参画に関する市民意識調査

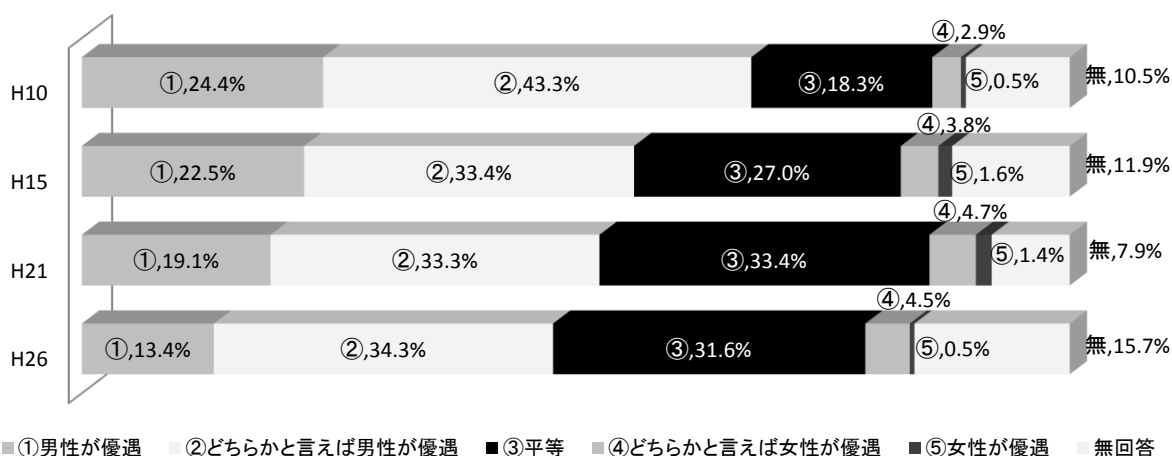
1. 男女平等に関する意識について

問1 次の項目で、男女の地位は平等になっていると思いますか？

- (1) 家庭生活で
- (2) 職場や職業で
- (3) 地域社会で
- (4) 学校教育で
- (5) 法律や制度の上で
- (6) 政治の場で
- (7) 社会通念や慣習、しきたりで

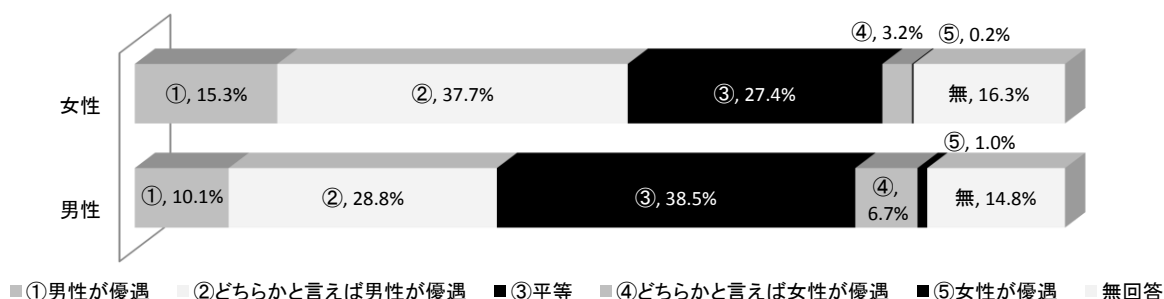
- ① 男性の方が非常に優遇されている
- ② どちらかと言えば男性の方が優遇されている
- ③ 平等である
- ④ どちらかと言えば女性の方が優遇されている
- ⑤ 女性の方が非常に優遇されている

【意識全体の経年変化（7項目の平均値の推移）】



- ・ 「男女の地位は平等」と回答した人の割合は、平成10年の調査開始時から前回調査まで増加していたが、今回は微減
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、初回調査では67.7%と、3人に2人が回答していたが、継続して減少しており、今回は47.7%と2人に1人が回答

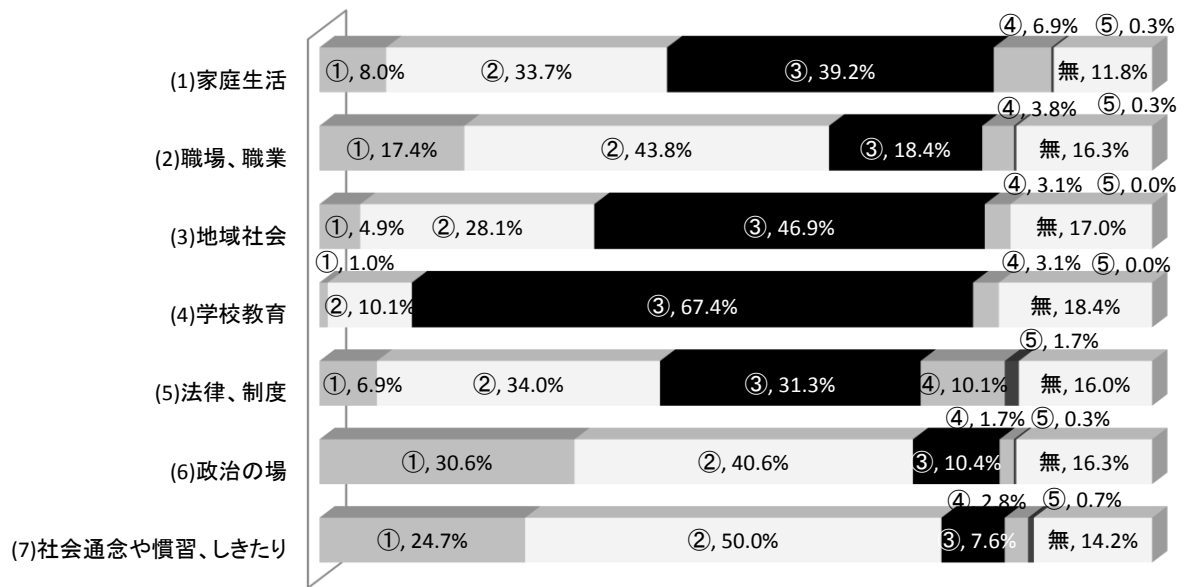
【意識全体(男女別(H26))】



- ・ 「男女の地位は平等」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高く、男性の38.5%が回答
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性の方が高く、53.0%と約半数が回答

【分野別の意識】

※以下、すべて全体 n=288 （女性 n=179、男性 n=109）



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- 最も「男女平等」と感じられているのは「学校教育」で、67.4%の方が平等と回答
- 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人が5割以上の「男性優遇感」が高い項目は、前回調査では7項目中5項目(「家庭生活」「職場・職業」「地域社会」「政治の場」「社会通念や慣習、しきたり」)だったが、今回は「職場・職業」「政治の場」「社会通念や慣習、しきたり」の3項目に減少
- 特に「社会通念や慣習、しきたり」では7割以上の方が「男性が優遇」と感じている

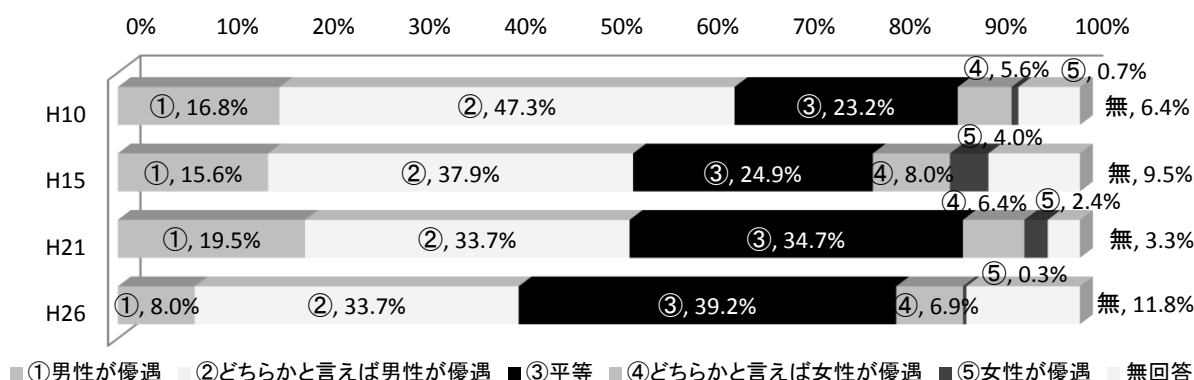
【「平等である」と回答した割合の経年変化】

	H10		H15		H21		H26	
	順位	割合	順位	割合	順位	割合	順位	割合
学校教育	(1)	—	1	62.1%	1	73.9%	1	67.4%
地域社会	4	19.9%	4	24.6%	3	35.6%	2	46.9%
家庭生活	3	23.2%	3	24.9%	4	34.7%	3	39.2%
法律、制度	2	27.0%	2	29.1%	2	37.4%	4	31.3%
職場、職業	6	12.6%	5	19.1%	6	22.8%	5	18.4%
政治の場	5	18.4%	6	17.6%	5	23.4%	6	10.4%
社会通念や慣習、しきたり	7	8.8%	7	11.3%	7	7.9%	7	7.6%

- 継続的に1位で平等感が高いのは「学校教育」
- 2、3位の「地域社会」「家庭生活」は、調査開始時から継続的に増加。特に「地域社会」は増加率が高い
- 一方、5～7位の「職場、職業」「政治の場」「社会通念や慣習、しきたり」は、今回平等感が減少

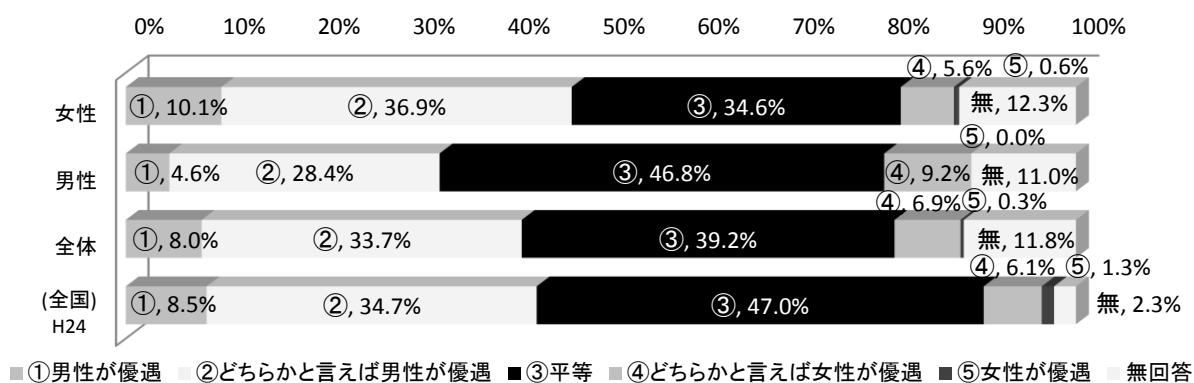
(1) 家庭生活で

【全体(経年変化)】



- ・ 「平等」と回答した人の割合は、平成 10 年の調査開始時から継続的に増加し、23.2%であったのが、今回は 39.2%に増加
- ・ 一方、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は平成 10 年から継続的に減少し、64.1%であったのが、今回は 41.7%に減少

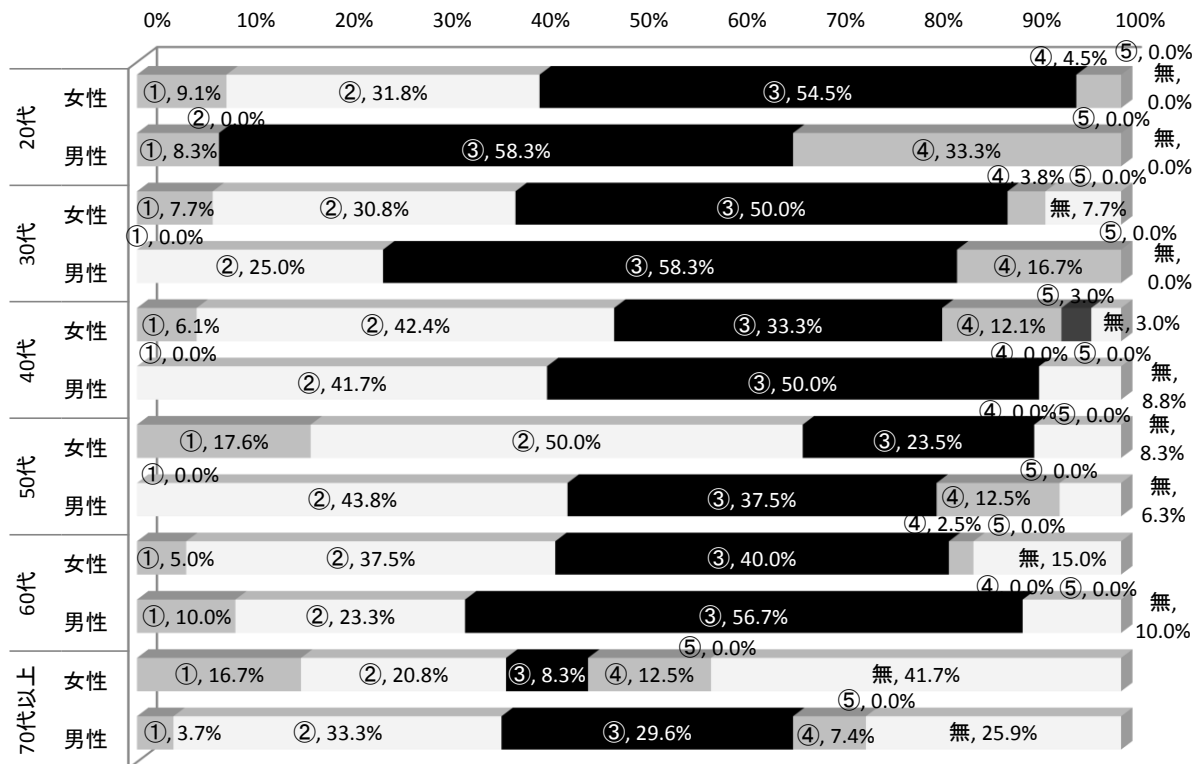
【全体(H26)】



※以下、「(全国) H24」は、平成 24 年度に実施した調査結果の値

- ・ 「平等」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 34.6%に対し男性 46.8%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 33.0%に対し女性は 47.0%
- ・ 男性の方が平等と感じる人の割合が高く、女性は男性優遇感を感じる割合が高い
- ・ 全国平均と比較すると、石狩市民の「男性が優遇」と回答した割合はほぼ同じだが、「平等」は低い

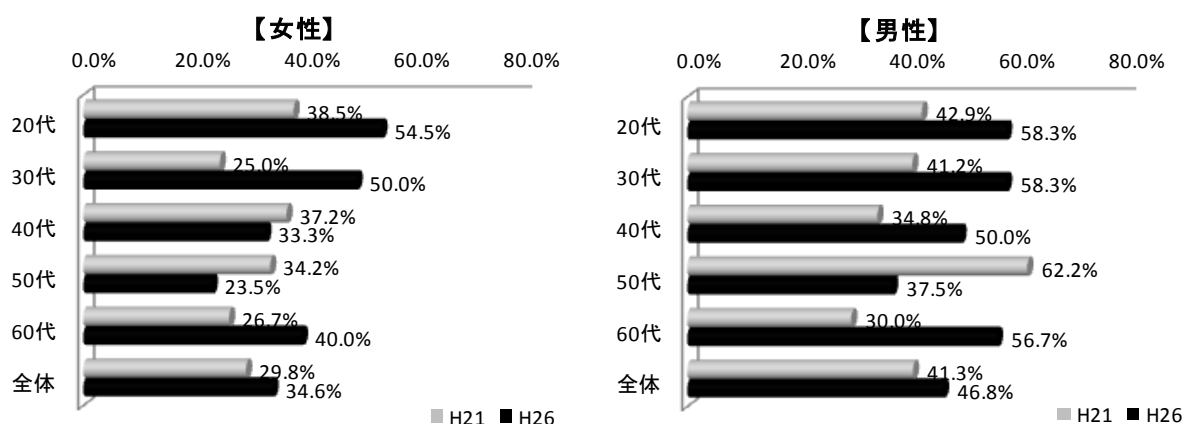
【性別・年代別(H26)】



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- すべての世代で、男性より女性の方が平等感が低く、男性優遇感が高い
- 20、30代は男女とも平等感が高く、5割以上の人が「平等」と回答
- 「平等」と回答した人の割合が最も高いのは、20代男性と30代男性で、ともに58.3%
- 「男性が優遇」(①と②の合計)の割合が最も高いのは、50代女性で67.6%

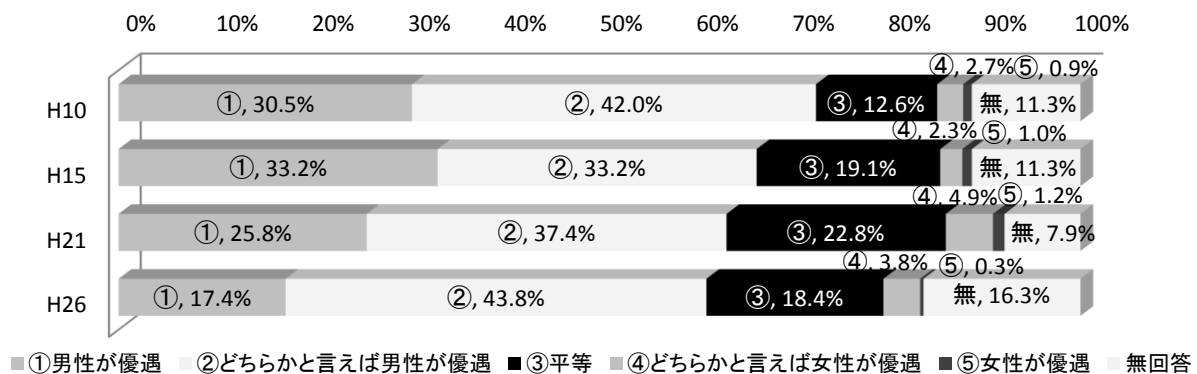
【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



- ほとんどの世代で増加
- 減少したのは50代男性と40、50代女性
- 大きく増加したのは60代男性、20、30代女性

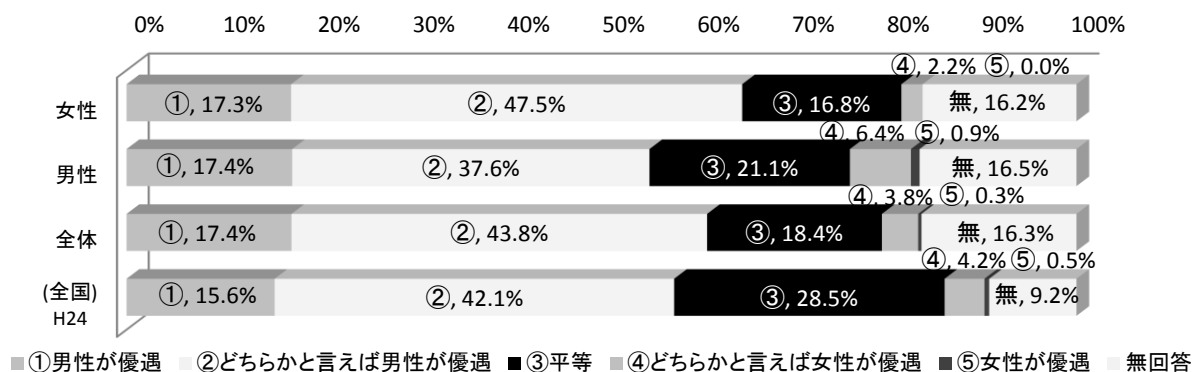
(2) 職場・職業で

【全体(経年変化)】



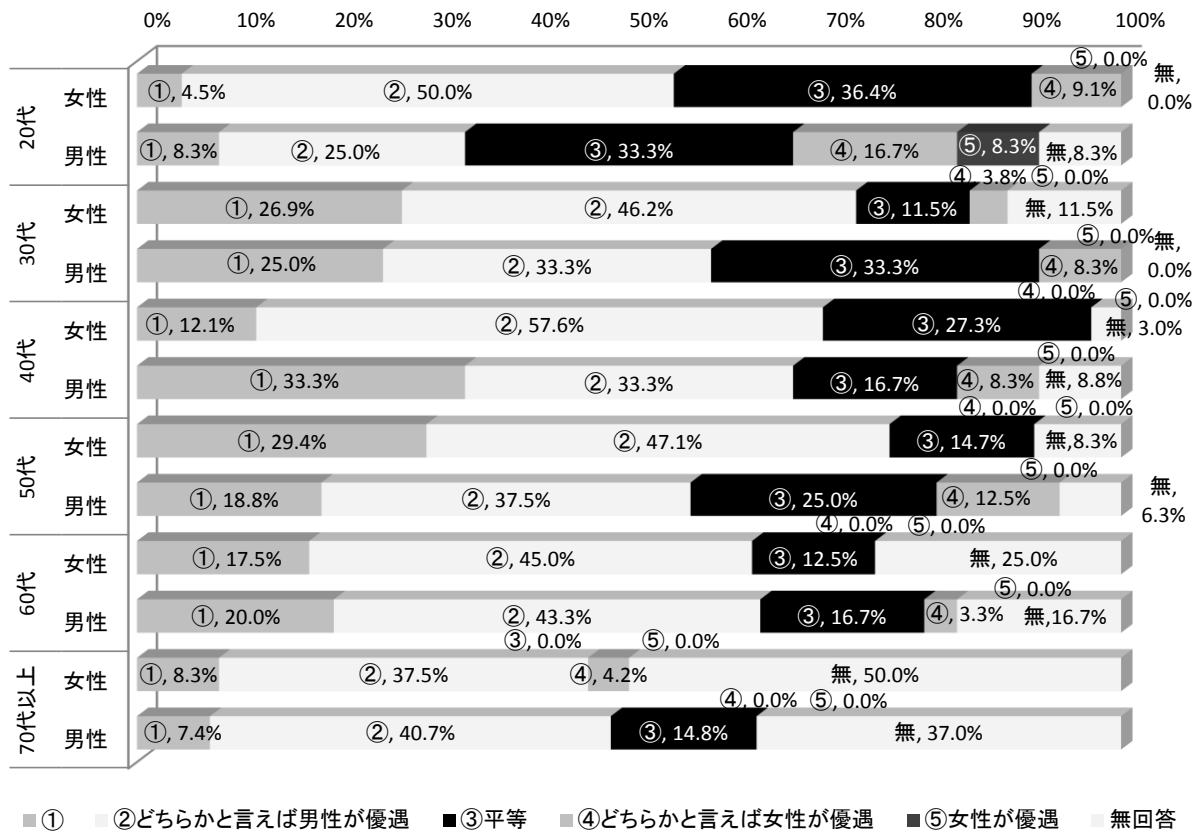
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、平成 10 年には継続的に増加していたが、今回は前回から微減し 18.4%
- ・ 一方、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は平成 10 年の 72.5%から継続的に減少し、今回は 61.2%

【全体(H26)】



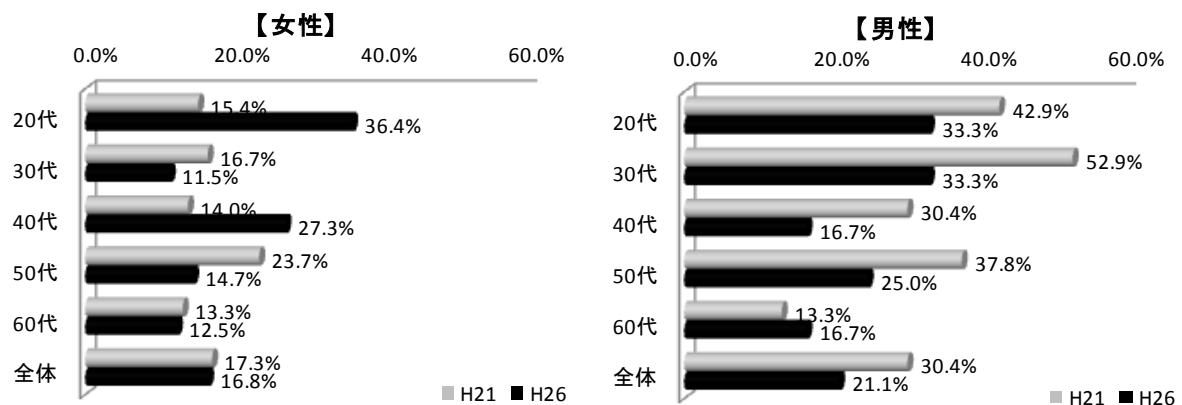
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 16.8%に対し男性 21.1%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 55.0%に対し女性は 64.8%
- ・ 男性の方が平等と感じる人の割合が高く、女性は男性優遇感を感じる割合が高い
- ・ 全国平均と比較すると、石狩市民の「男性が優遇」と感じる人の割合はほぼ同じだが、平等と感じる割合は低い

【性別・年代別(H26)】



- ・ 「男女とも平等」と回答した割合が高いのは 20 代で、3割以上の人が「平等」と回答
- ・ 50 代以下のすべての世代で、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は男性より女性の方が高い
- ・ 20 代は、女性の平等感・男性優遇感は女性が高く、一方男性は低い、男女間の意識差がある
- ・ 「平等」と回答した人の割合が最も高いのは、20 代女性で 36.4%
- ・ 「男性が優遇」の割合が最も高いのは、50 代女性で 76.5%

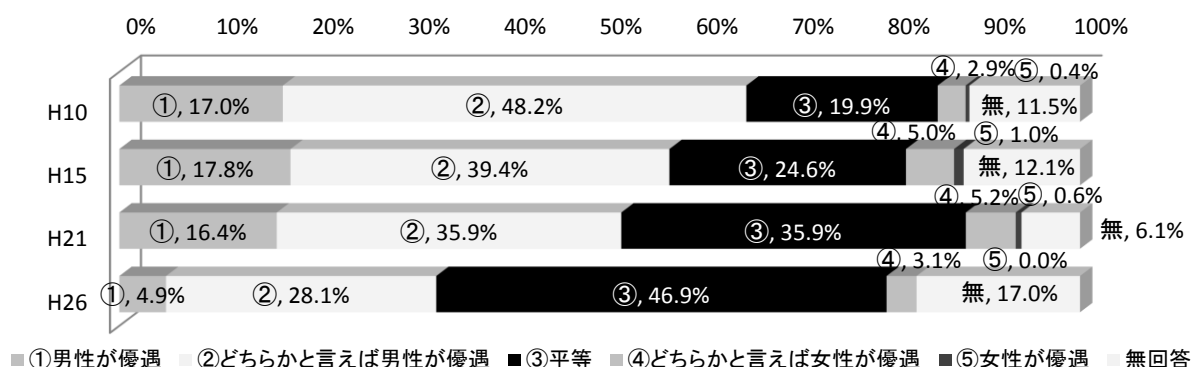
【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



- ・ 多くの世代で減少
- ・ 男性の方が減少が目立つ。特に大きく減少したのは、30、40 代男性
- ・ 一方、大きく増加したのは 20、40 代女性

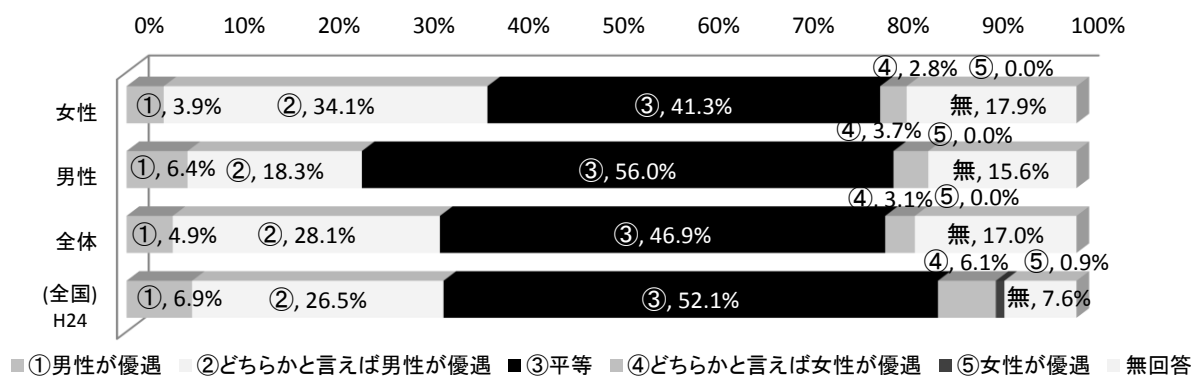
(3) 地域社会で

【全体(経年変化)】



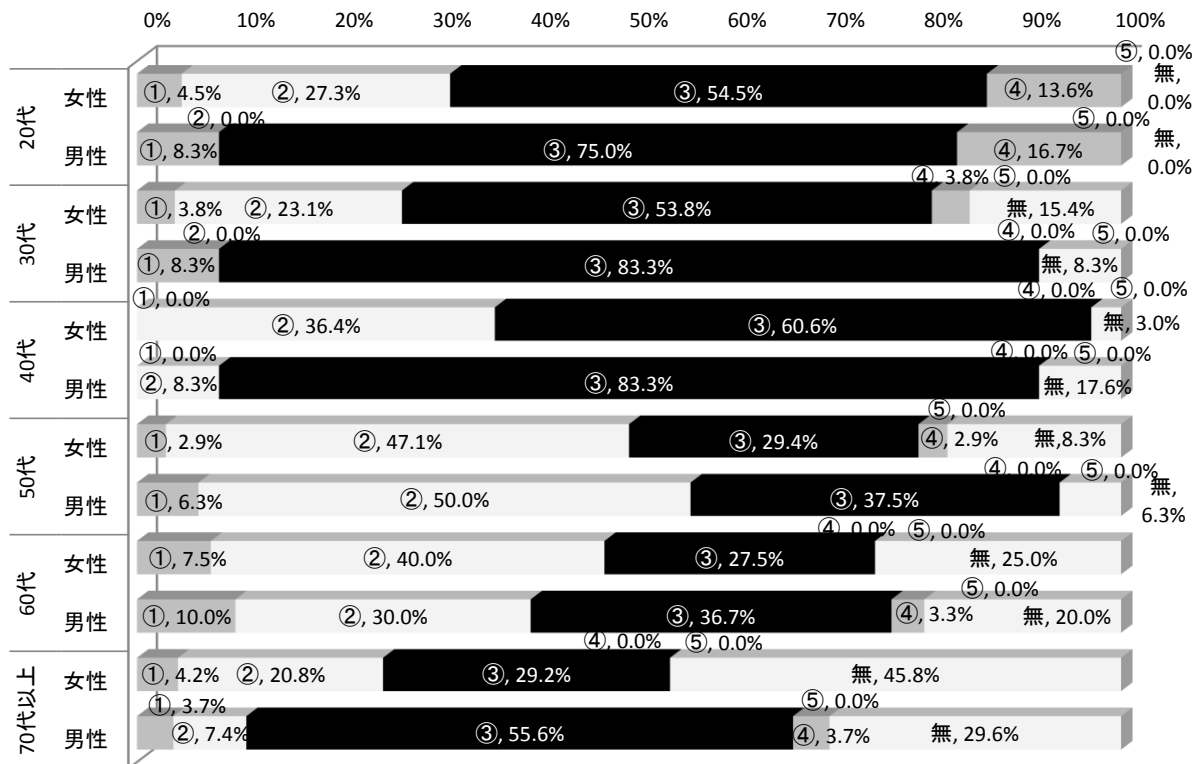
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、平成 10 年の調査開始時から継続的に増加し、19.9%であったのが、今回は 46.9%になり大きく増加
- ・ 一方、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は平成 10 年から継続的に減少し、65.2%であったのが、今回は 33.0%に減少

【全体(H26)】



- ・ 「平等」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 41.3%に対し男性 56.0%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 24.7%に対し女性は 38.0%
- ・ 男性の方が平等感が高く、女性の方が男性優遇感が高い
- ・ 全国平均と比較すると、石狩市民の「男性が優遇」と回答した割合はほぼ同じだが、「平等」は低い

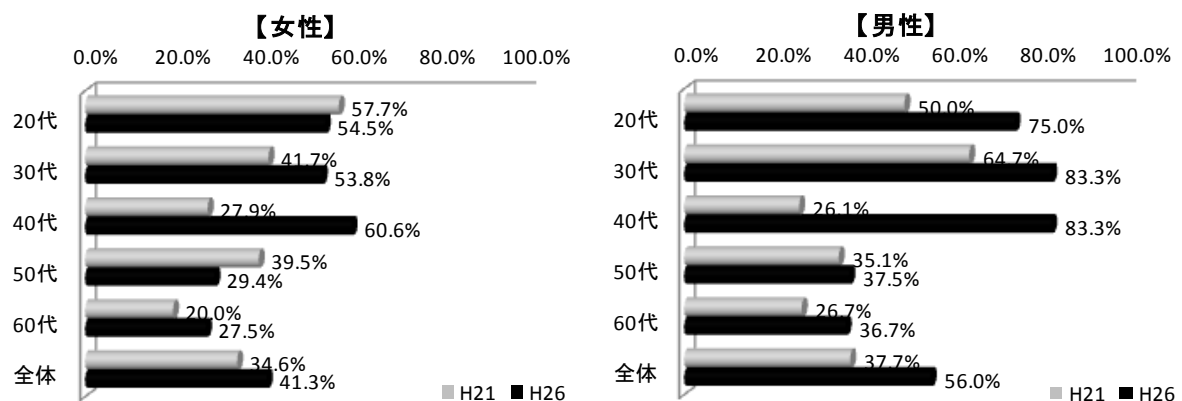
【性別・年代別(H26)】



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- ・ 男女とも 40 代以下と 50 代以上で意識の違いが見られ、40 代以下は平等感が強い
- ・ 40 代以下のすべての世代で、男性の「平等」と感じる人の割合が高く 7 割以上、「男性が優遇」(①と②の合計)と感じる人の割合は低く 1 割以下と「平等感」が強いが、女性は男性に比べ「男性優遇感」が強く、意識の差が大きい
- ・ 「平等」と回答した人の割合が最も高いのは、30 代男性と 40 代男性で 83.3%
- ・ 「男性が優遇」の割合が最も高いのは、50 代男性で 56.3%

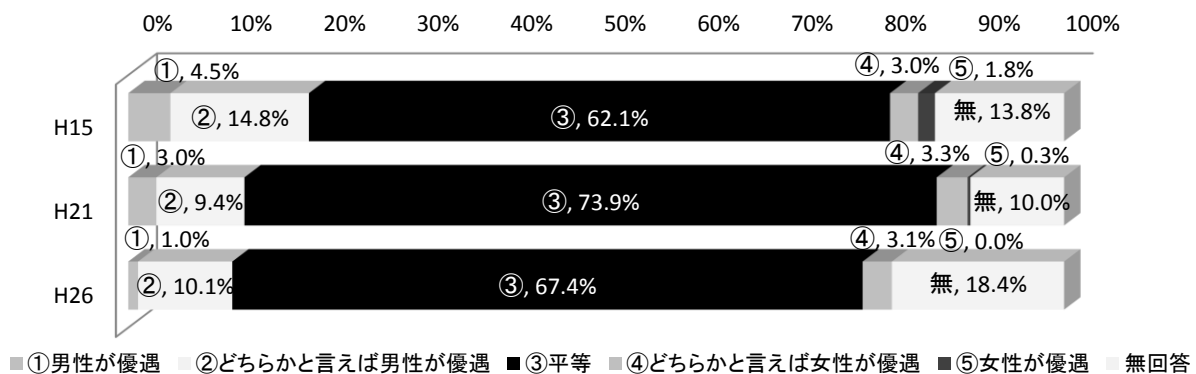
【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



- ・ 男性はすべての世代で増加
- ・ 女性は 30、40、60 代で増加
- ・ 男性の方が増加が目立つ。特に大きく増加したのは、40 代男性
- ・ 世代では男女とも 40 代で大きく増加

(4) 学校教育で

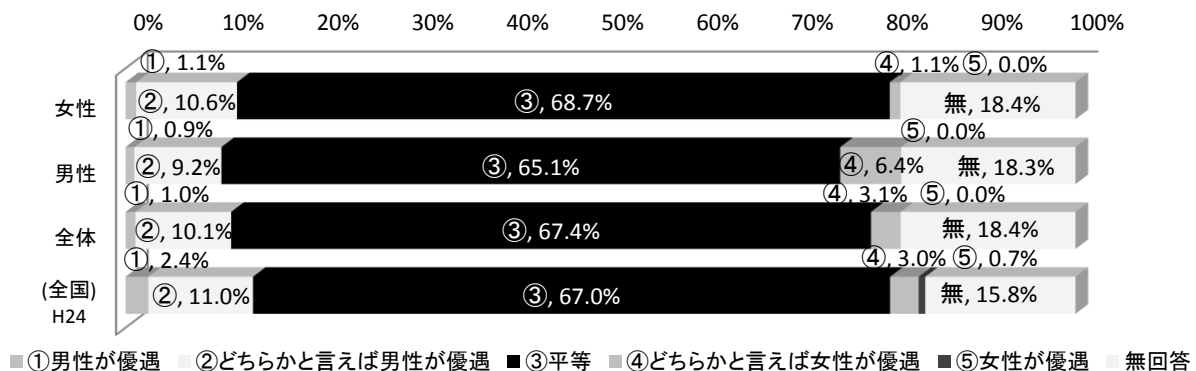
【全体(経年変化)】



※本項目は、平成 15 年度調査から追加

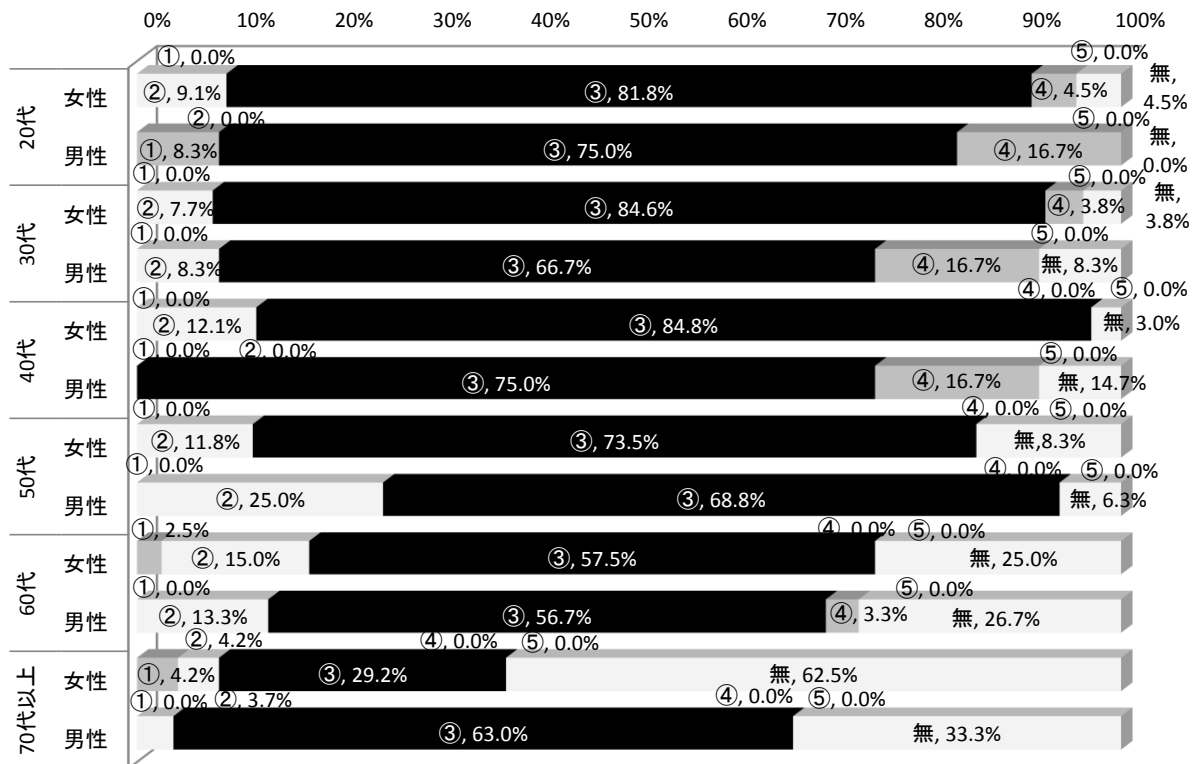
- ・ 平等感は平成 15 年の項目設定時から継続的に高い
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、前回から微減し 67.4%
- ・ 一方、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は平成 15 年から継続的に減少し、19.3%であったのが、今回は 11.1%に減少

【全体(H26)】



- ・ 男女の意識割合はほぼ同じ
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、男女とも高く6割台
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合も、男女とも低く約1割
- ・ 全国平均と、石狩市民の意識割合もほぼ同じ

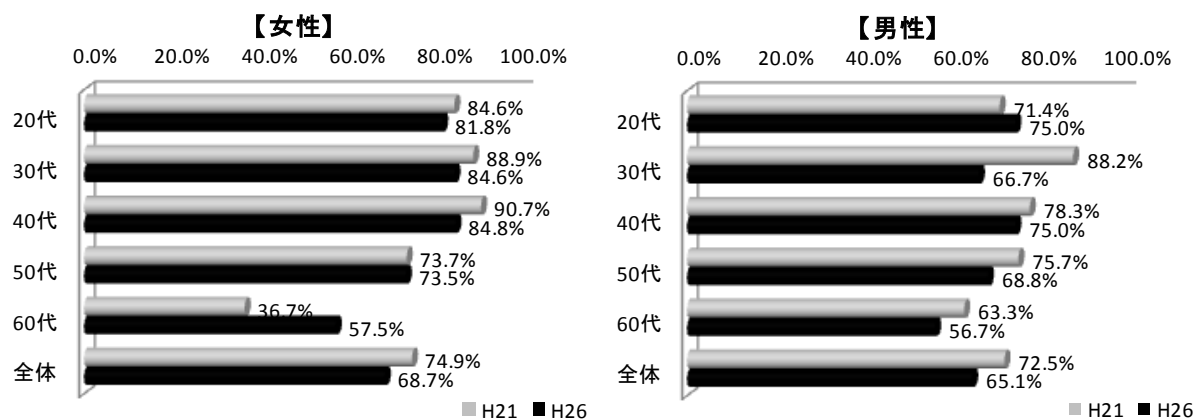
【性別・年代別(H26)】



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- ・ 40代以下のすべての世代で、平等感が高い
- ・ 「平等」と感じる人の割合が最も高いのは、40代女性で84.8%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)の割合が最も高いのは、50代男性で25.0%
- ・ 「女性が優遇」(④と⑤の合計)の割合が最も高いのは、20、30、40代各世代の男性で、16.7%

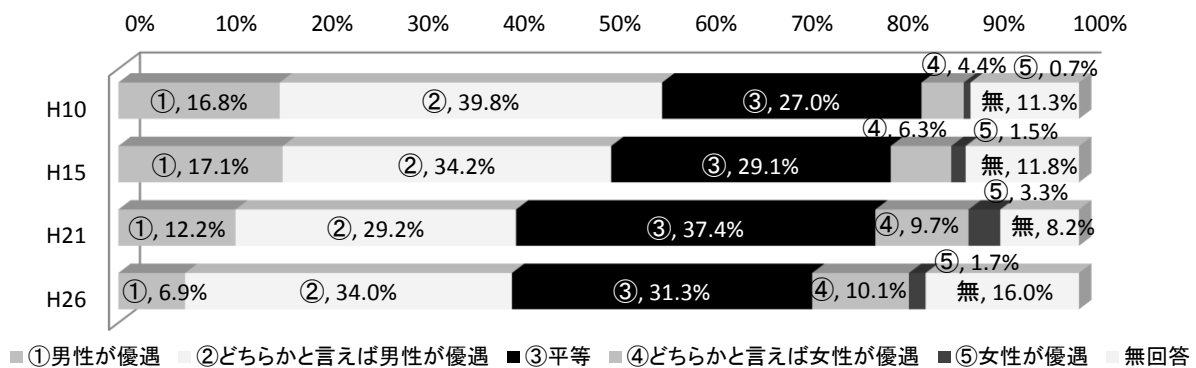
【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



- ・ 男性は20代以外の世代で減少
- ・ 女性は60代以外の世代で減少
- ・ 特に変化が大きいのは、30代男性の減少

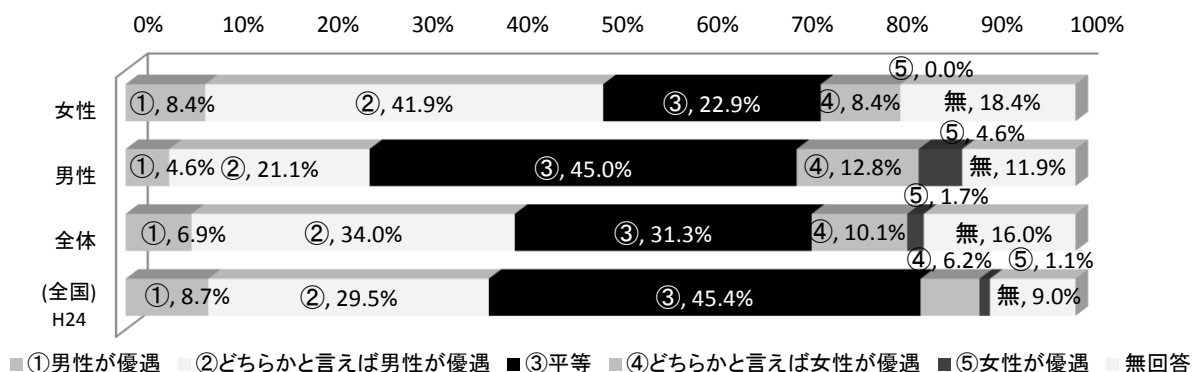
(5) 法律や制度の上で

【全体(経年変化)】



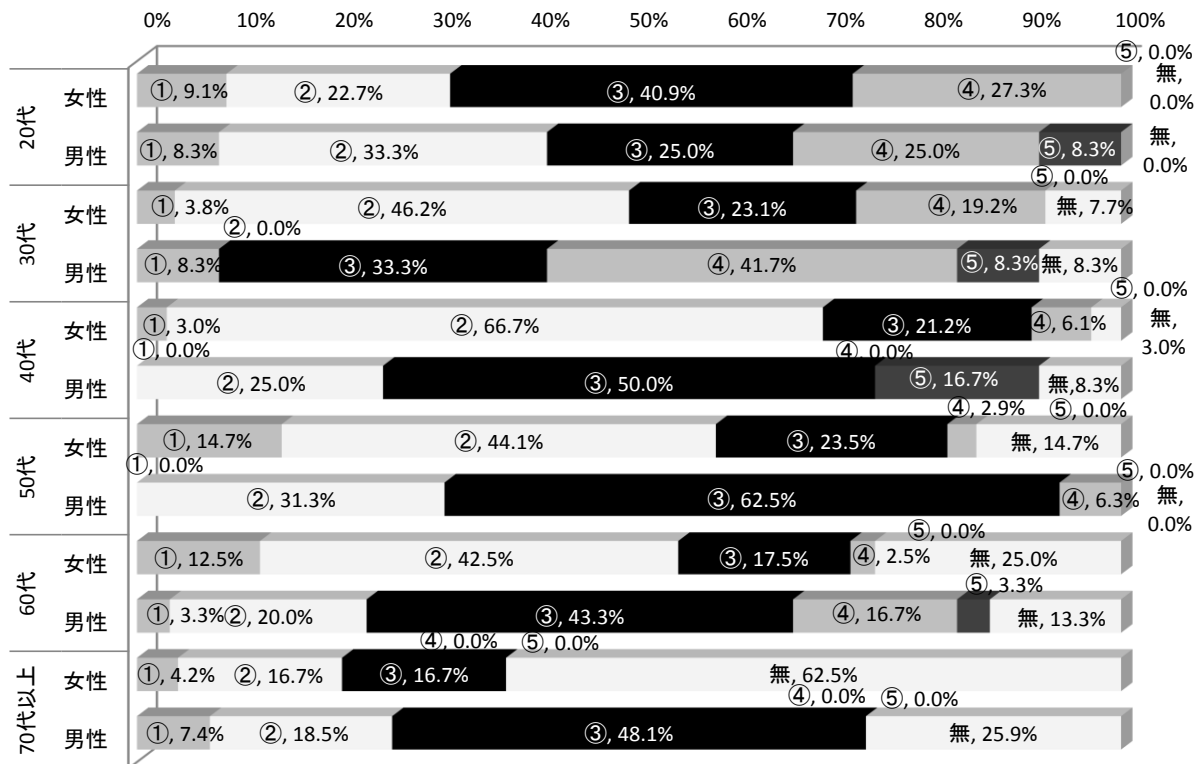
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、平成 10 年の調査開始時から継続的に増加していたが、今回は減少し 31.3%
- ・ 一方、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は平成 10 年から継続的に減少し、56.61%であったのが、今回は 40.9%に減少

【全体(H26)】



- ・ 「平等」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 22.9%に対し男性 45.0%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 25.7%に対し女性は 50.3%
- ・ 男性の方が平等感が高く、女性の方が男性優遇感が高い
- ・ 全国平均と比較すると、全国平均と比較すると、石狩市民の「男性が優遇」と回答した割合はほぼ同じだが、「平等」は低い

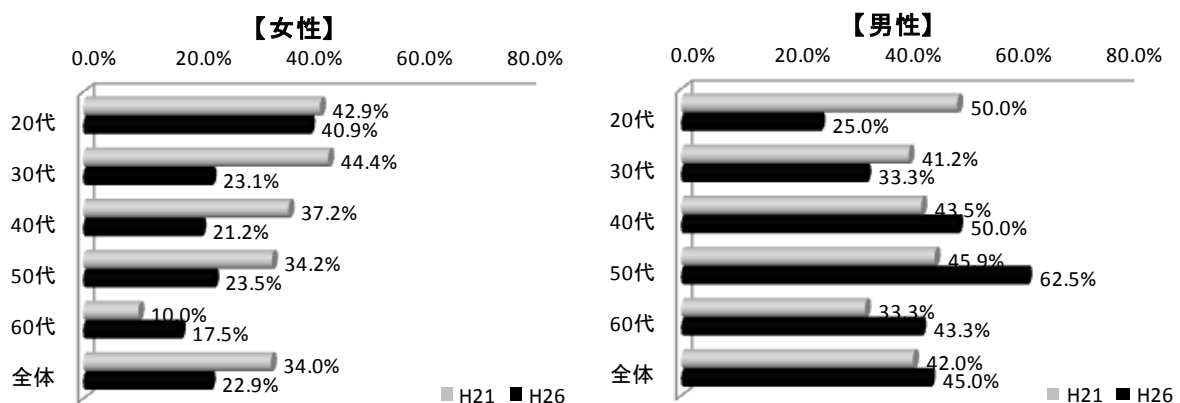
【性別・年代別(H26)】



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- ・ 20代以外のすべての世代で、女性より男性の方が平等感が高い
- ・ 20代と70代以上以外のすべての世代で、男性より女性の方が男性優遇感が高い
- ・ 20代は男女の意識割合はほぼ同じだが、30代以上は男性は平等感が強く、女性は男性優遇感が高い傾向があり、意識の差が大きい
- ・ 「平等」と回答した人の割合が最も高いのは、50代男性で62.5%
- ・ 「男性が優遇」の割合が最も高いのは、40代女性で69.7%
- ・ 「女性が優遇」の割合が最も高いのは30代男性で、50.0%

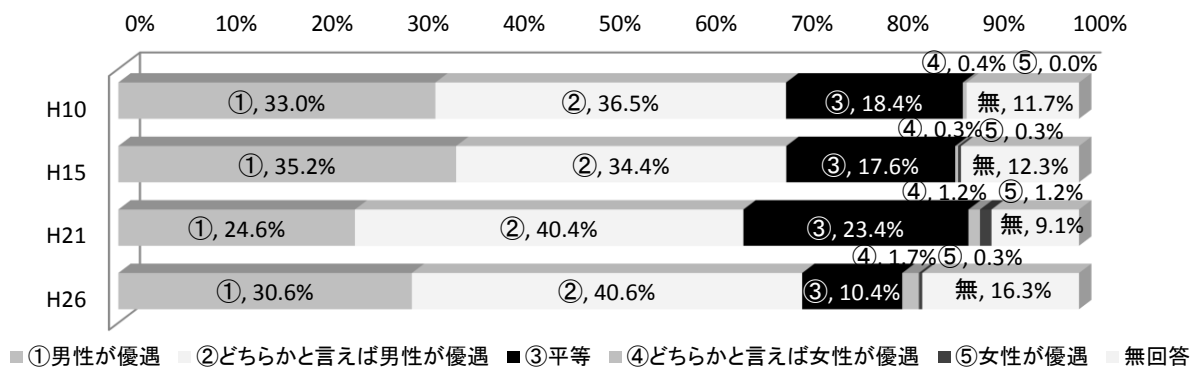
【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



- ・ 男性は30代以下は減少、40代以上は増加
- ・ 女性は60代以外は減少
- ・ 特に変化が大きいのは、20代男性の減少

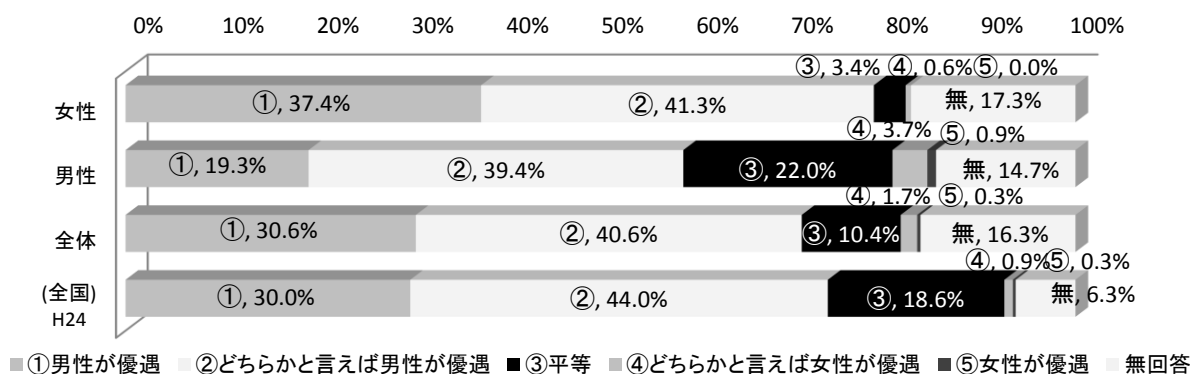
(6) 政治の場で

【全体(経年変化)】



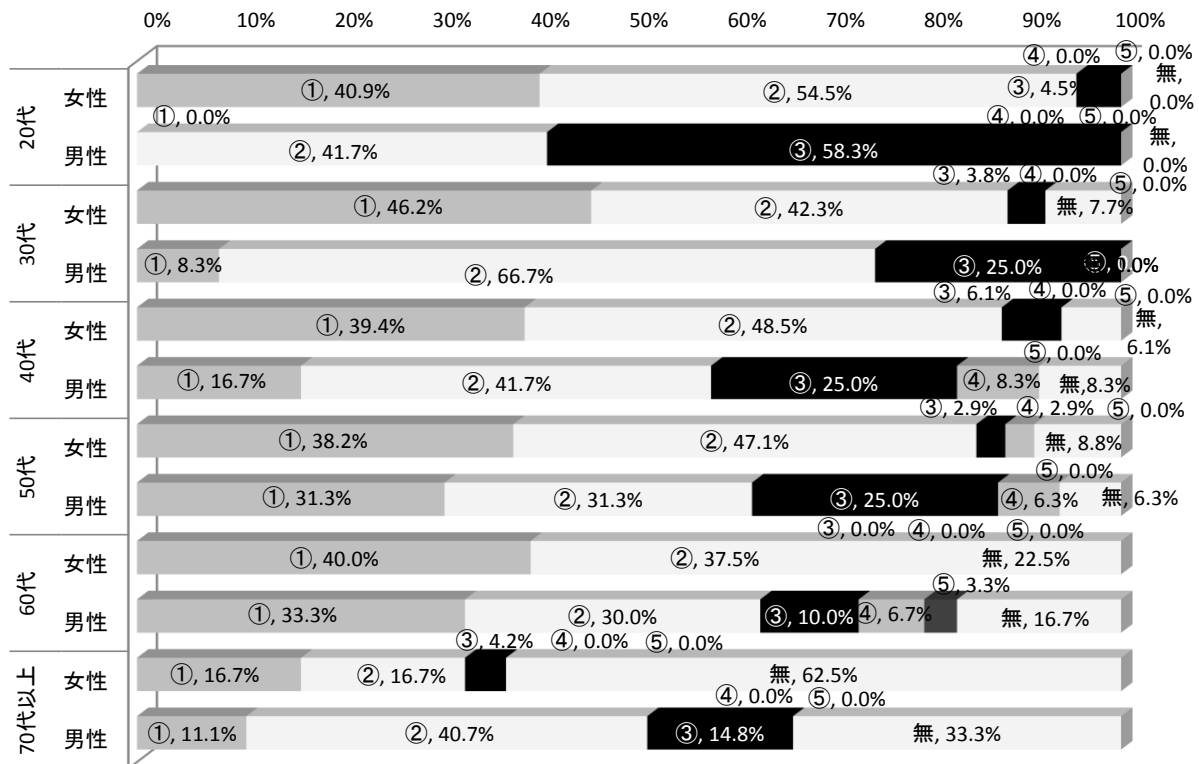
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、前回調査で増加していたが今回大きく減り、これまでの調査で最も少ない 10.4% に減少
- ・ 一方、「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、前回調査で減少していたが今回増加し、これまでの調査で最も多い 71.2% に増加

【全体(H26)】



- ・ 「平等」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 3.4% に対し男性 22.0%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 58.7% に対し女性は 78.7%
- ・ 男性の方が平等感が高く、女性の方が男性優遇感が高い
- ・ 全国平均と比較すると、石狩市民の「男性が優遇」と回答した割合はほぼ同じだが、「平等」は低い

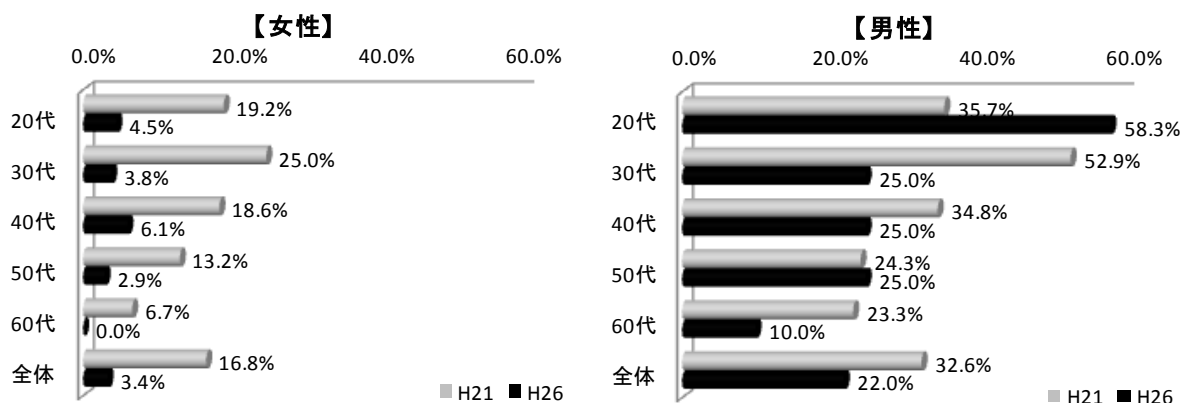
【性別・年代別(H26)】



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- ・ 女性はすべての世代で平等感が大変低く 1 割以下
- ・ 60 代以下の女性のすべての世代で男性優遇感が大変強く、特に 50 代以下は9割前後
- ・ 男性と女性の意識差が大きく、特に 20 代について女性は男性優遇感が強いのにに対し、男性は平等と感じる人が5割以上
- ・ 「平等」と回答した人の割合が最も高いのは、20 代男性で 58.3%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)の割合が最も高いのは、20 代女性で 95.4%

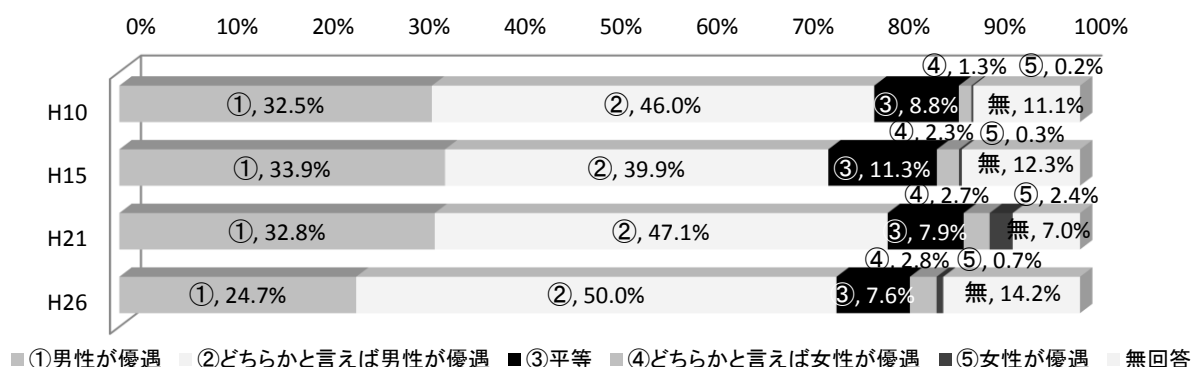
【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



- ・ 女性はすべての世代で減少
- ・ 男性は 20、50 代以外で減少
- ・ 特に変化が大きいのは、20 代女性と 30 代の男女の減少

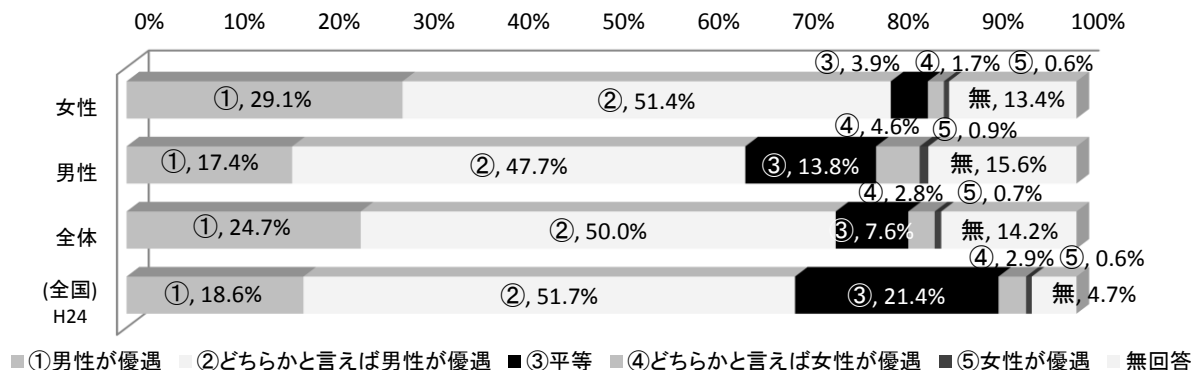
(7) 社会通念や慣習、しきたりで

【全体(経年変化)】



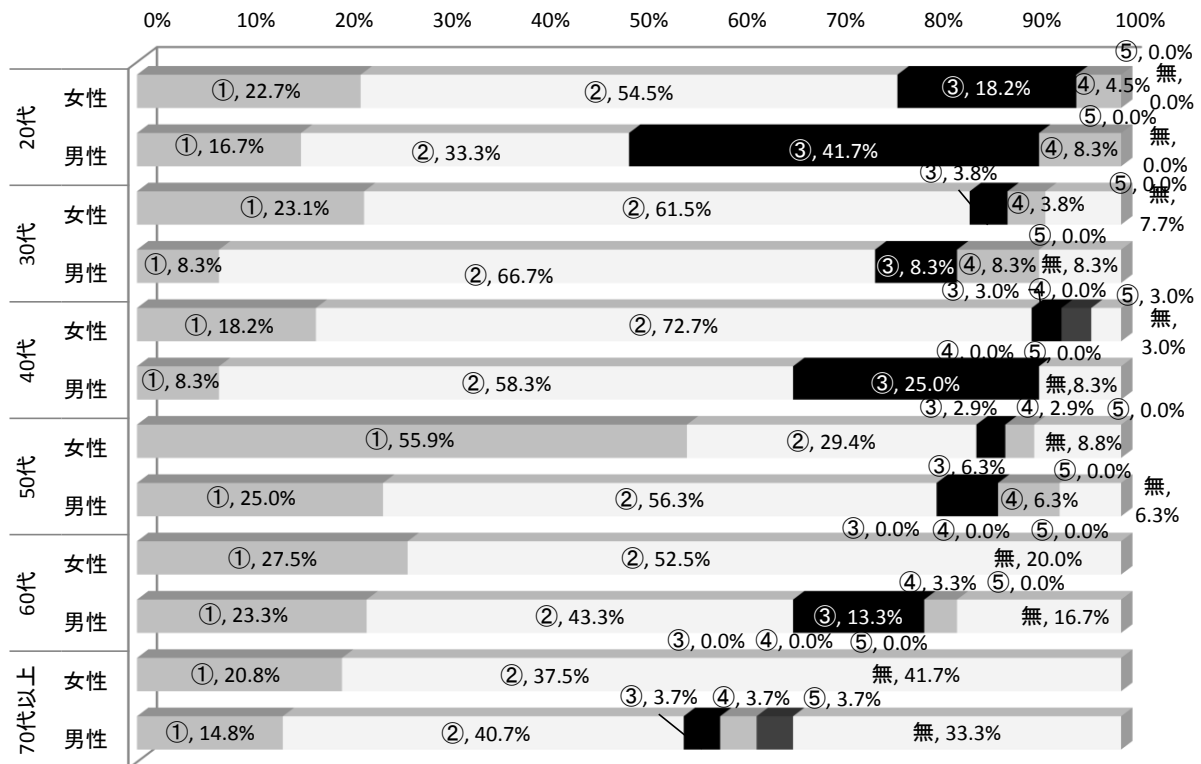
- ・ 「平等」と回答した人の割合は、平成 10 年の調査開始時から継続的に低く、1 割以下
- ・ 今回はこれまでの調査の中で最も少なく 7.6%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合も継続的に高く、毎回 7 割以上
- ・ 今回は前回の 79.9%より下がり 74.7%

【全体(H26)】



- ・ 「平等」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 3.9%に対し男性 13.8%
- ・ 「男性が優遇」(①と②の合計)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 65.1%に対し女性 80.5%
- ・ 男性の方が平等感が高く、女性の方が男性優遇感が高い
- ・ 全国平均と比較すると、石狩市民の「男性が優遇」と回答した割合はほぼ同じだが、「平等」は低い

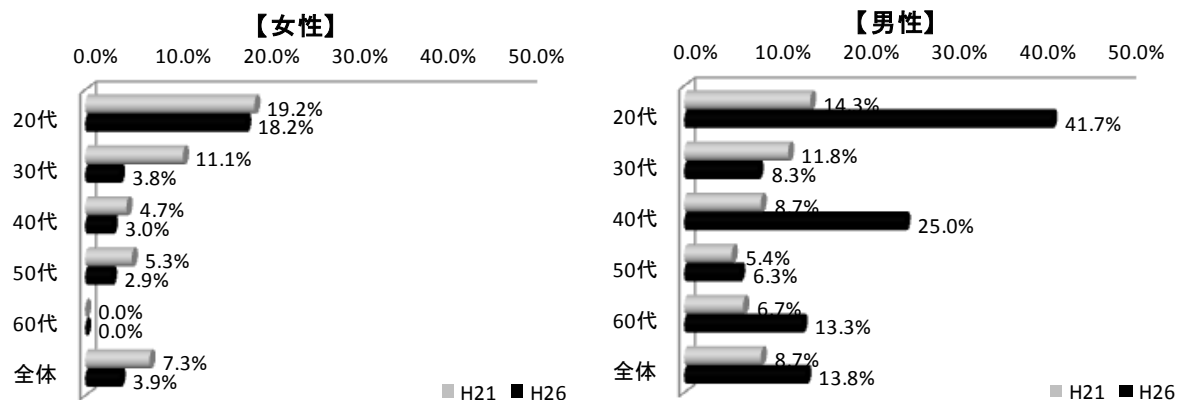
【性別・年代別(H26)】



■ ①男性が優遇 ■ ②どちらかと言えば男性が優遇 ■ ③平等 ■ ④どちらかと言えば女性が優遇 ■ ⑤女性が優遇 ■ 無回答

- すべての世代で、男性より女性の方が平等感が低く、男性優遇感が高い
- 「平等」と回答した人の割合が最も高いのは、20代男性で41.7%
- 「男性が優遇」(①と②の合計)の割合が最も高いのは、40代女性で90.9%

【「平等である」と回答した割合の前回調査(H21)比較】



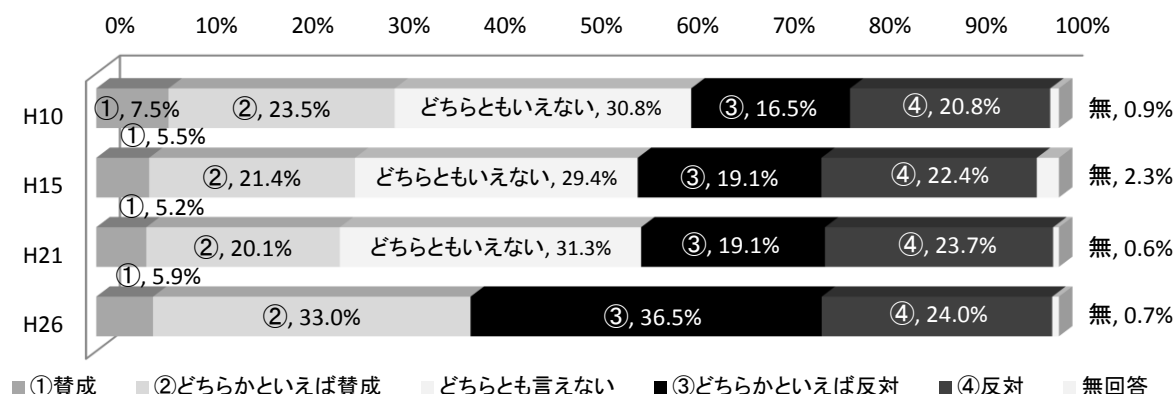
- 男性は30代以外のすべての世代で増加
- 女性は60代以外のすべての世代で減少
- 特に変化が大きいのは、20代男性の増加

2. 男女の役割分担や家庭生活について

問2 「男は仕事、女は家庭」というように性別によって役割を決める考え方について、あなたはどのように思いますか？

〔 ① 賛成 ② どちらかといえば賛成 ③ どちらかといえば反対 ④ 反対 〕

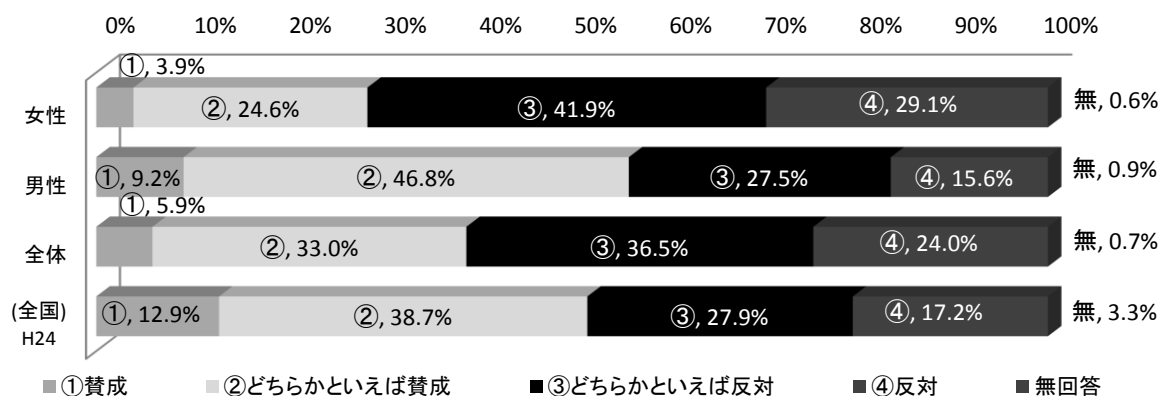
【全体(経年変化)】



※H26 は選択肢から「どちらとも言えない」を削除

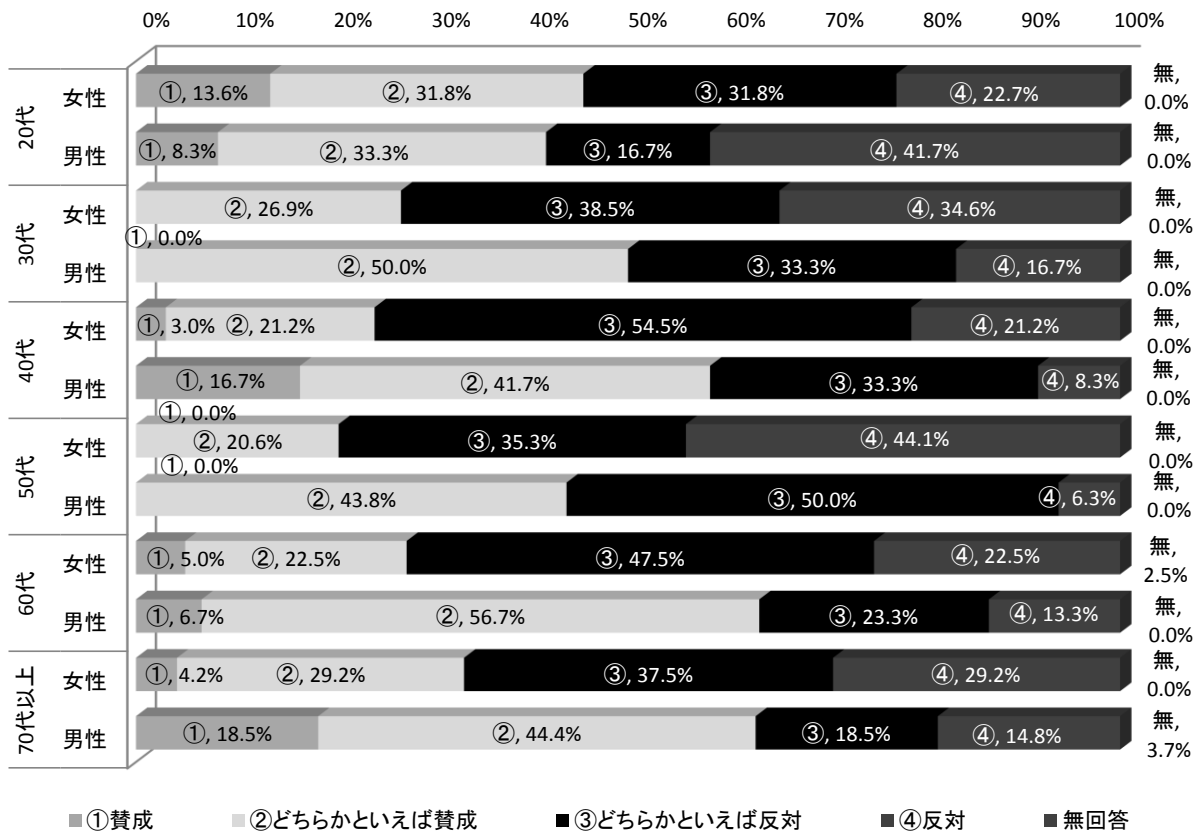
- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は 38.9%
- ・ 「反対」(③と④)と回答した人の割合は 60.5%
- ・ 性別による役割分担について、4割が賛成し、6割が反対している

【全体(H26)】



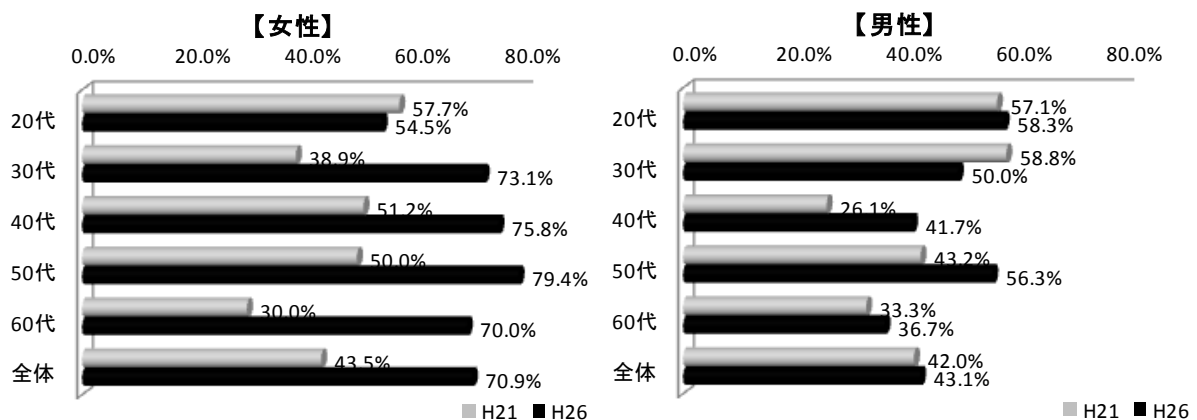
- ・ 「賛成」と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 28.5%に対し男性 56.0%
- ・ 「反対」と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 43.1%に対し女性は 71.0%
- ・ 全国平均と比較すると、石狩市民の方が賛成する人の割合が低く、反対する人の割合が高い

【性別・年代別(H26)】



- ・ 20代は、男女とも「賛成」約4割、「反対」約6割
- ・ 30代以降、男女間で差異が見られ、男性は「賛成」、女性は「反対」の割合が多い
- ・ 「賛成」と回答した人の割合が最も高いのは60代男性、次いで70代以上の男性で、ともに6割以上
- ・ 「反対」と回答した人の割合が最も高いのは50代女性で79.4%、次いで女性の30代、40代、60代も7割台

【「反対」「どちらかといえば反対」と考える割合の前回調査(H21)比較】

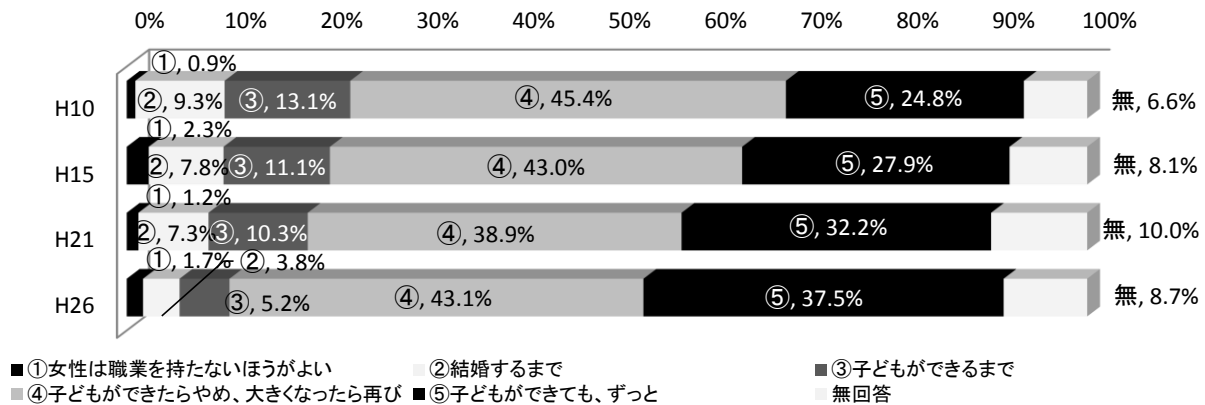


- ・ 男性30代、女性20代以外の男女すべての世代で増加
- ・ 特に女性の増加が大きい

問3 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか？

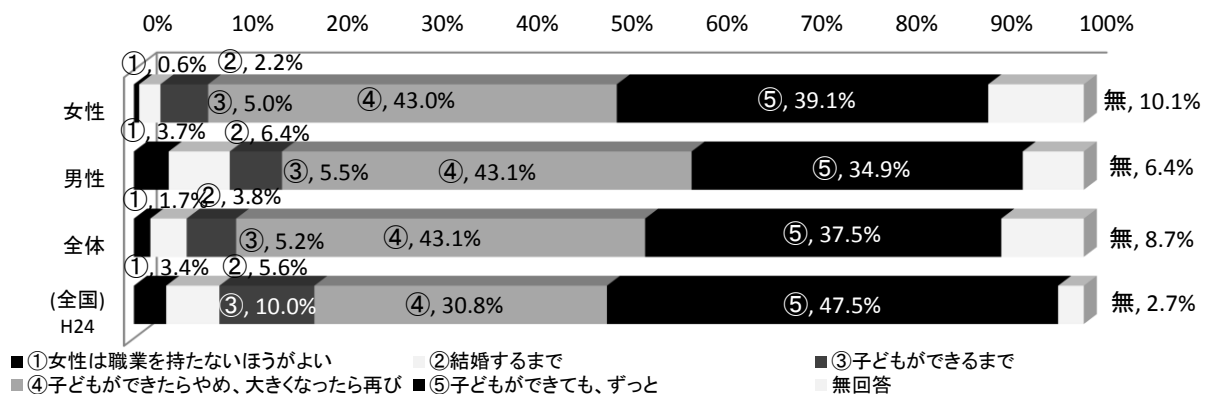
- ① 女性は職業を持たないほうがよい
- ② 結婚するまでは職業を持ったほうがよい
- ③ 子どもが生まれるまでは職業を持ったほうがよい
- ④ 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持ったほうがよい
- ⑤ 子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい

【全体(経年変化)】



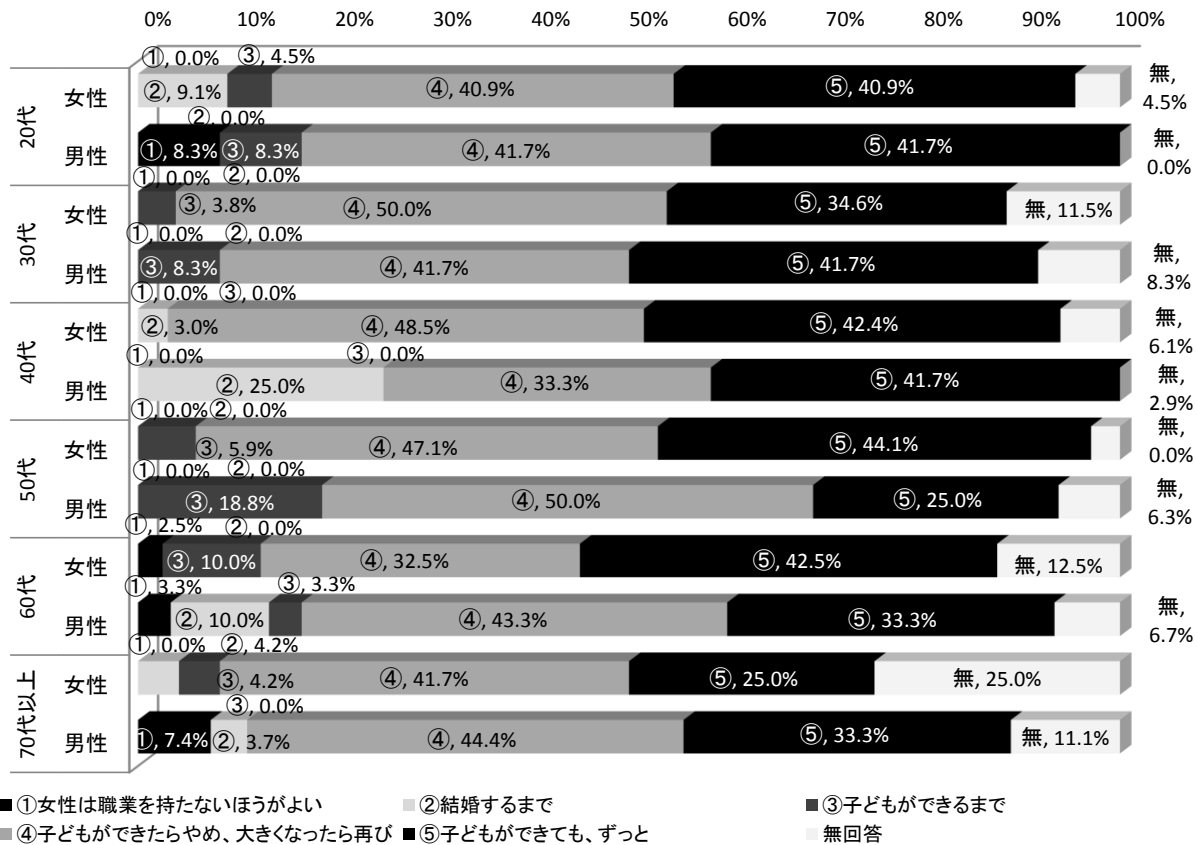
- ・ 「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した人の割合は、平成10年の調査開始時から継続的に増加し、24.8%であったのが、今回は37.5%に増加
- ・ 一番多いのは、調査開始時から継続して「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持ったほうがよい」で、今回は43.1%が回答

【全体(H26)】



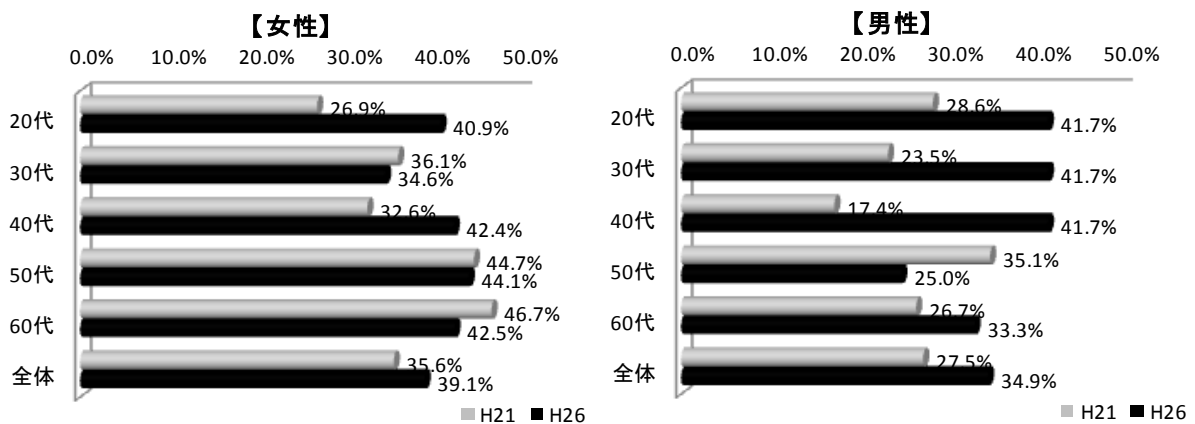
- ・ 女性と男性で、考え方の割合はほぼ同様
- ・ 全国平均と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した人の割合は、石狩市民の方が割合が低く、全国平均が約5割に対し、約4割。
- ・ 「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持ったほうがよい」と考える割合は、石狩市民は約4割に対し、全国平均は3割と、市の方が高い

【性別・年代別(H26)】



- ・ 「子どもができたらやめ、大きくなったら再び職業を持ったほうがよい」と回答した人の割合が、40代男性、60代女性以外の男女すべての世代で最も高い
- ・ 子育て世代(男女20～40代)のうち、30代女性(34.6%)以外は「子どもができても、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した人の割合が4割以上
- ・ 女性は50、60代も「子どもができても、ずっと」と回答した人の割合が4割以上だが、男性は3割以下となった

【「子どもができても職業を持ち続けた方がよい」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

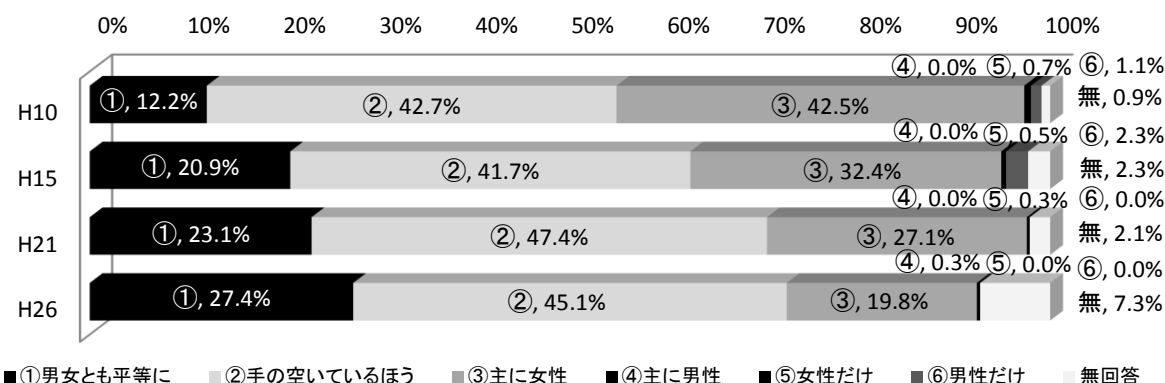


- ・ 男性は50代以外のすべての世代で増加
- ・ 特に変化が大きいのは、20～40代男性の増加
- ・ 女性は20代で大きく増加

問4 家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか？

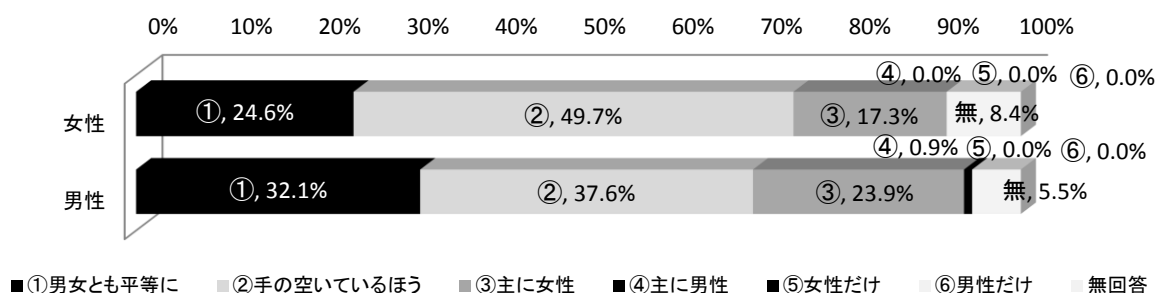
- ① 男女とも平等にするのがよい
- ② 手の空いているほうがやればよい
- ③ 主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい
- ④ 主に男性がやり、女性は手伝う程度でよい
- ⑤ 女性だけがやるべき
- ⑥ 男性だけがやるべき

【全体(経年変化)】



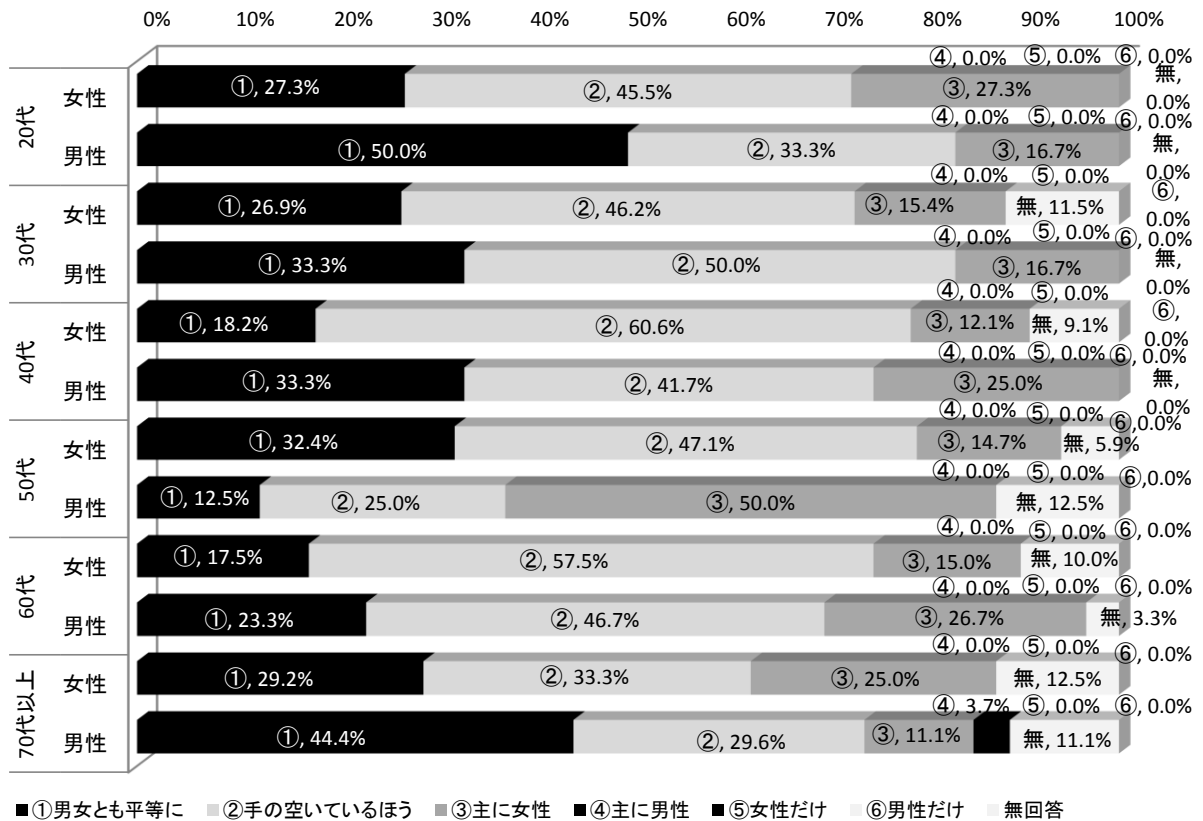
- ・ 「男女とも平等にするのがよい」と回答した人の割合は、平成 10 年の調査開始時から継続的に増加し、12.2%であったのが、今回は 27.4%に増加
- ・ 一番多いのは、初回調査から継続して「手の空いているほうがやればよい」で、今回は 45.1%
- ・ 初回調査では「手の好いているほう」同様に多かった「主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい」は、調査ごとに減少し、42.5%であったのが今回は 19.8%になった

【男女別(H26)】



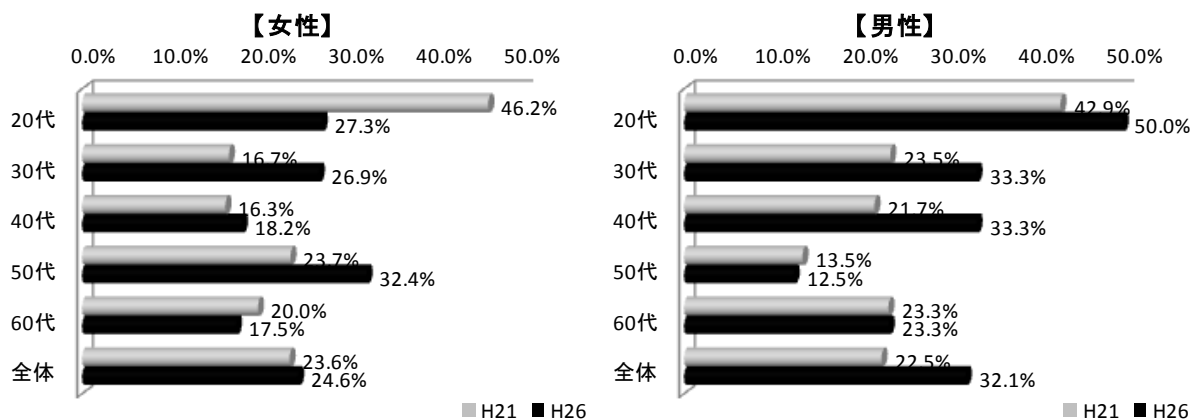
- ・ 女性より男性の方が「男女平等に」と考える人の割合が高い
- ・ 男性より女性の方が「手の空いているほう」と考える人の割合が高い

【性別・年代別(H26)】



- ・ 「手の空いているほう」と回答した人の割合が、20代男性、50代男性、70代以上の男性以外の男女すべての世代で最も高い
- ・ 子育て世代(20～40代)は、各世代とも男性の方が「男女とも平等にするのがよい」と回答した人の割合が女性より高い
- ・ 特に20代男性は「男女とも平等に」と考える割合が50.0%と高く、すべての世代、性別の中で最も高い

【「平等がよい」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

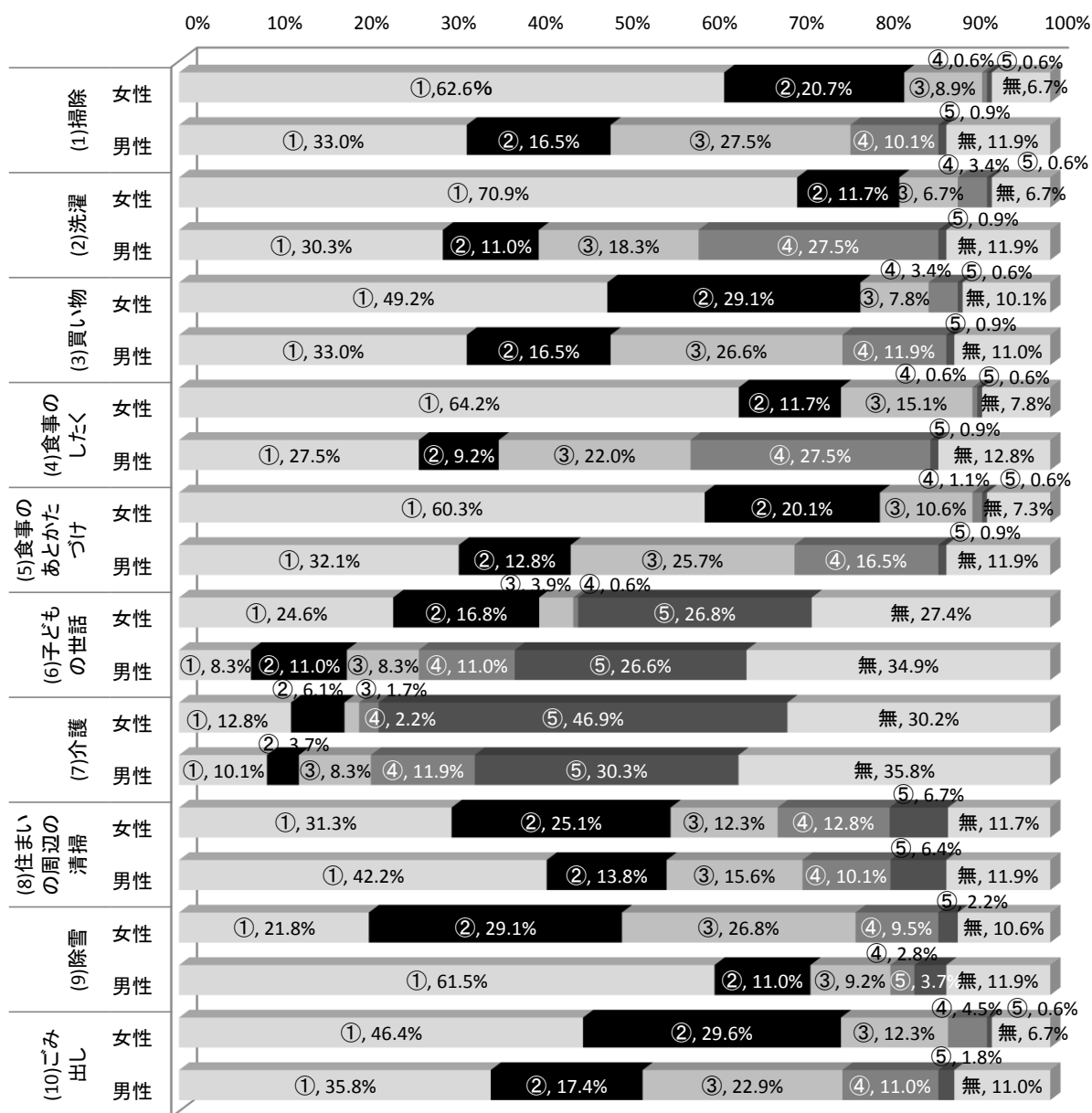


- ・ 男性は子育て世代(20～40代)のすべてで増加
- ・ 女性は20代で大きく減少し、30、40代は増加

問5 あなたは実際にどのくらい家事をしていますか？ 下の枠から選んで記入してください。

- (1) 掃除 (2) 洗濯 (3) 日用品の買い物 (4) 食事のしたく
 (5) 食事のあとかたづけ (6) 子どもの世話 (7) 高齢者などの介護
 (8) 住まいの周辺の清掃 (9) 住まいの周辺の除雪 (10) ごみ出しや分別

- ① 主に自分 ② 配偶者や家族と分担 ③ 手伝う程度 ④ 全然やらない
 ⑤ 該当する家事がない

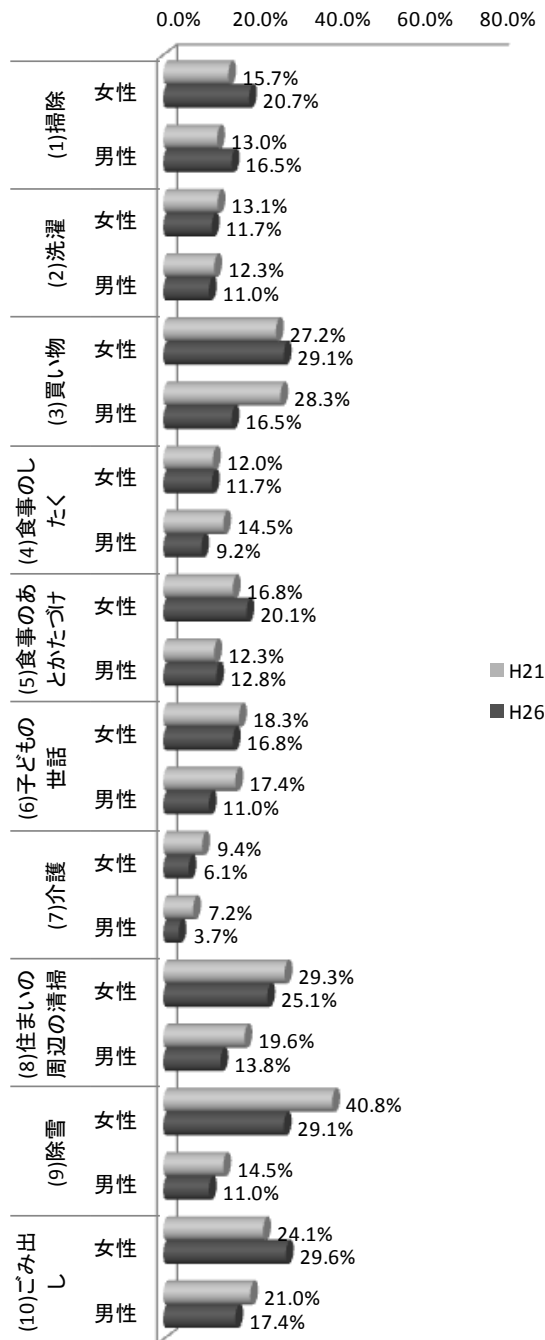


■ ①主に自分 ■ ②配偶者や家族と分担 ■ ③手伝う程度 ■ ④全然やらない ■ ⑤該当する家事がない ■ 無回答

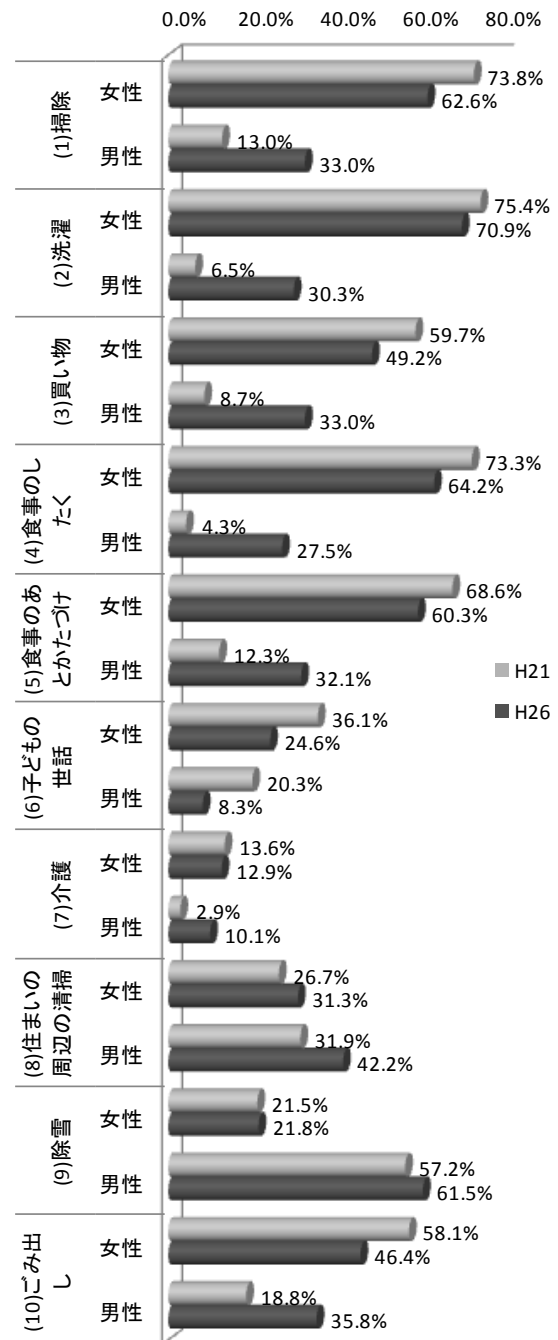
- 女性の「配偶者や家族と分担」と回答している人の割合の高い家事は、「買い物」「ごみ出し」「除雪」でいずれも約3割
- 男性の「配偶者や家族と分担」と回答している割合の高い家事は、「掃除」「買い物」「ごみ出し」で、16～17%
- 女性の「主に自分」と回答している人の割合の最も高い家事は、「洗濯」が 70.9%、次いで「掃除」「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」が6割台
- 男性の「主に自分」と回答している人の割合の高い家事は「除雪」で 61.5%

【前回調査(H21)比較】

【配偶者や家族と分担】



【主に自分】



- ・ 女性は、「主に自分」で行っている割合は減少傾向（「清掃」「除雪」以外は、すべて減少）
- ・ 男性は、「配偶者や家族と分担」している割合は減少、「主に自分」で行っている割合は増加傾向（「分担」する家事は、「掃除」「食事のあとのかたづけ」以外はすべて減少、「主に自分」の家事は、「子どもの世話」以外はすべて増加）

問6 子育てに関するさまざまな考え方があります。

あなたは下の項目についてどのように考えますか？ 下の枠から選んで番号を記入してください。

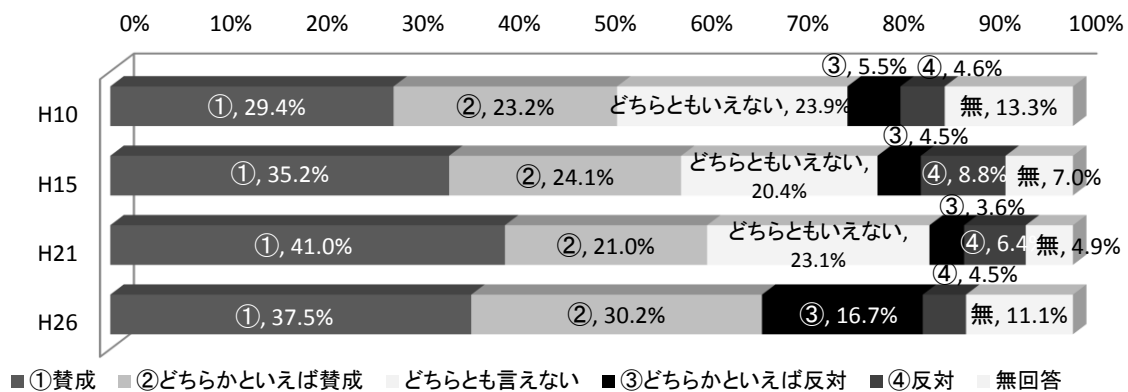
- (1) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい
- (2) 3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい
- (3) 保育園や幼稚園の送り迎えやお弁当づくりは母親の役目である
- (4) 家事の手伝いは男女平等にさせるほうがよい

〔 ① 賛成 ② どちらかといえば賛成 ③ どちらかといえば反対 ④ 反対 〕

(1) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい

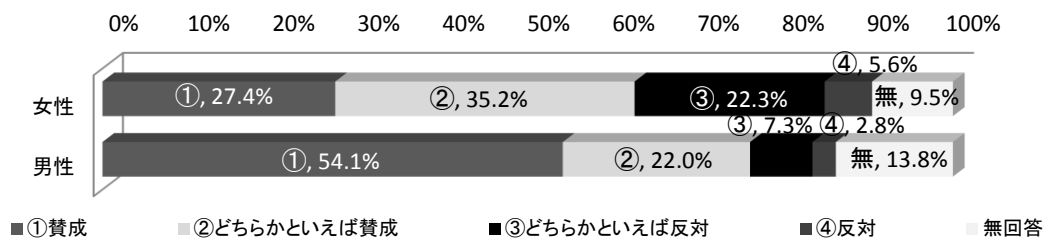
【全体(経年変化)】

※H26は選択肢から「どちらとも言えない」を削除



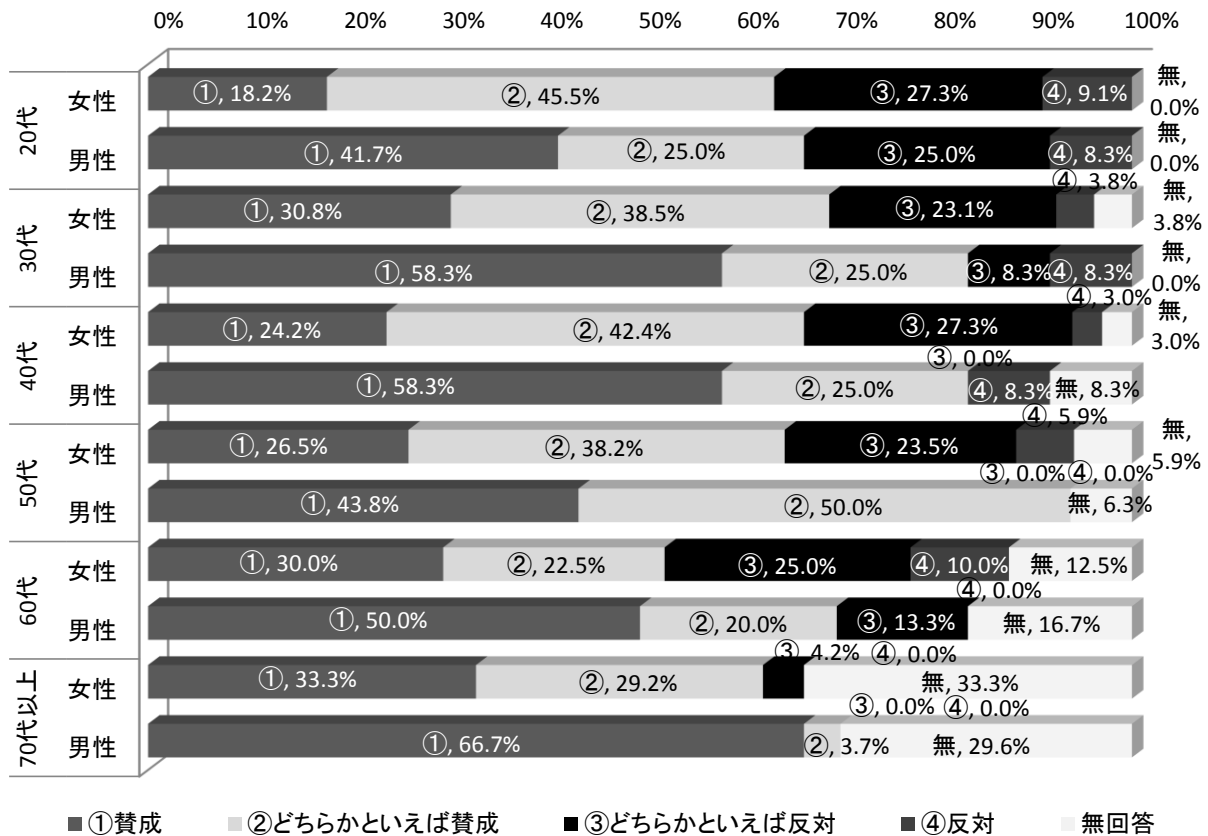
- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は 67.7%
- ・ 「反対」(④と⑤)と回答した人の割合は 21.2%
- ・ 約7割が「賛成」し、約2割が「反対」

【男女比(H26)】



- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 62.6%に対し男性 76.1%
- ・ 「反対」(④と⑤)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 10.1%に対し女性は 27.8%

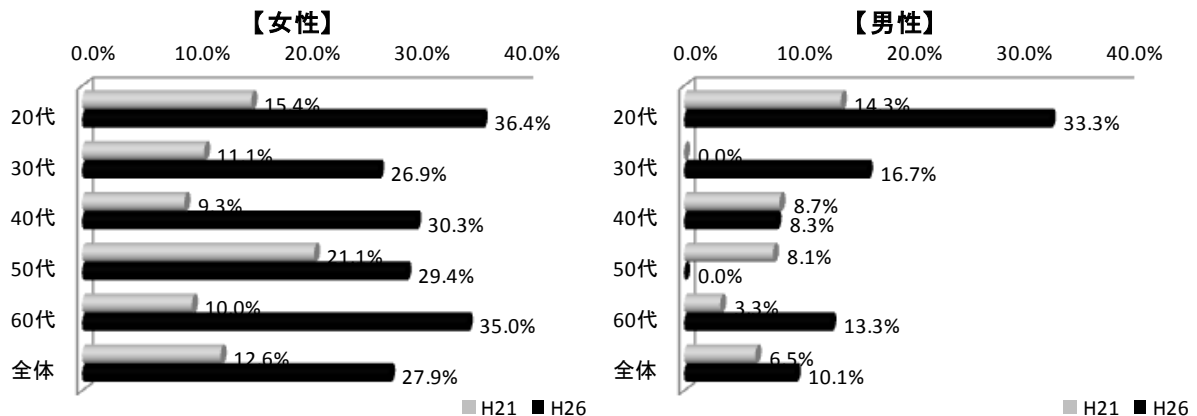
【性別・年代別(H26)】



- すべての世代で女性より男性の方が「賛成」(①と②)と回答した人の割合が高く、「反対」(④と⑤)の割合は低い
- 20代は、男女の各割合がほぼ同じで、「賛成」が6割台、「反対」が3割台
- 30代以降、「賛成」の割合は女性より男性の方が高くなり、差が出てくる
- 「賛成」と回答した人の割合が最も高いのは50代男性で93.8%
- 「反対」と回答した人の割合が最も高いのは20代女性で36.4%

【「反対」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

※「③反対」と「④どちらかといえば反対」の合計

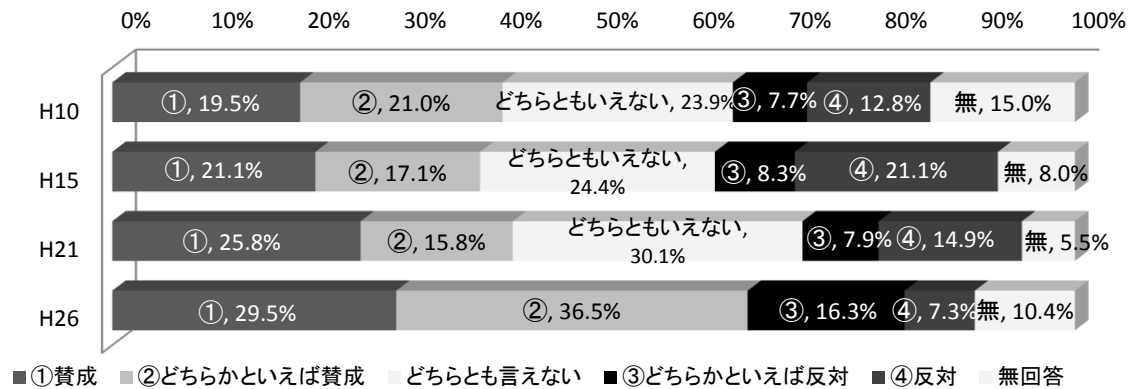


- 40代、50代男性以外の男女すべての世代で大きく増加

(2) 3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい

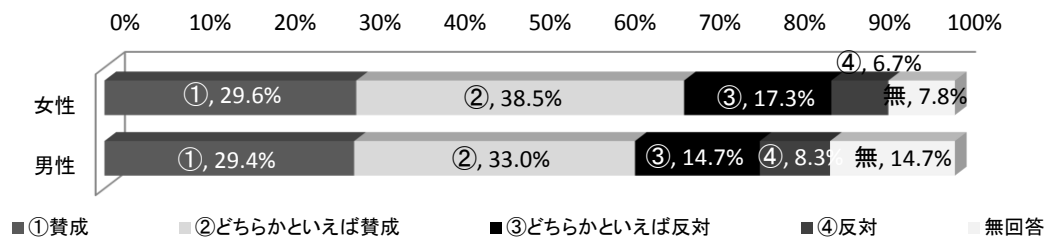
【全体(経年変化)】

※H26は選択肢から「どちらとも言えない」を削除



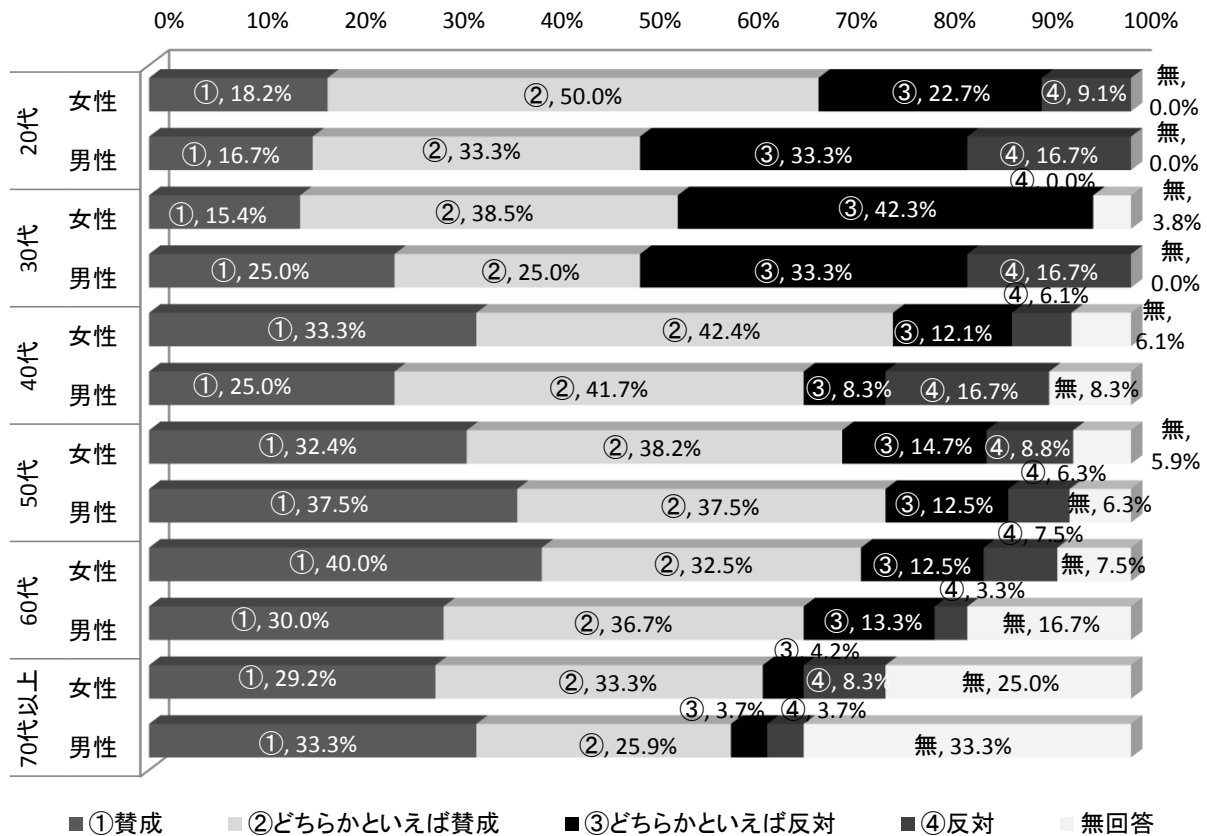
- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は 66.0%
- ・ 「反対」(③と④)と回答した人の割合は 31.2%
- ・ 約7割が「賛成」し、約3割が「反対」

【男女比(H26)】



- ・ 女性と男性の各割合は、ほぼ同じ
- ・ 男女とも「賛成」(①と②)と回答した人が6割以上

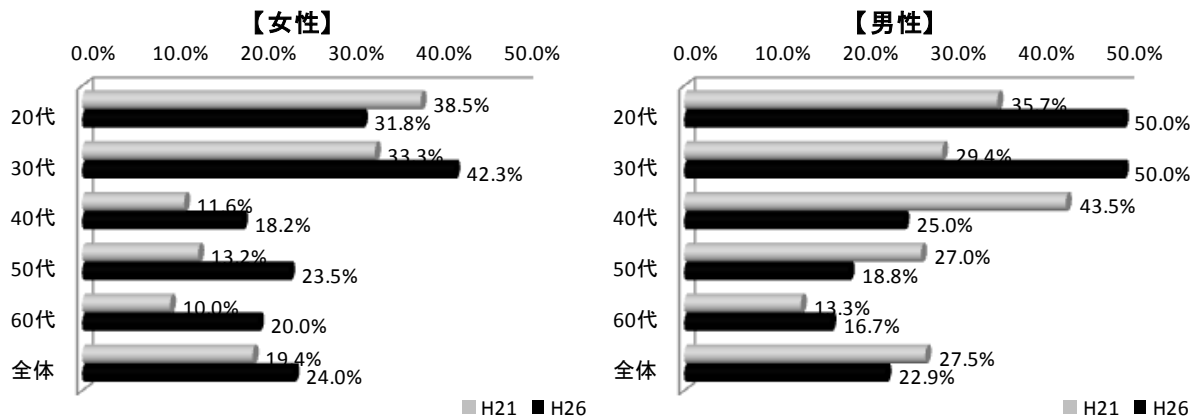
【性別・年代別(H26)】



- ・ 20代男性と30代男性以外の男女すべての世代で「賛成」(①と②)と回答した人の割合が高い
- ・ 最も高いのは40代女性75.7%、次いで50代男性75.0%、60代女性72.5%、50代女性70.6%
- ・ 20代男性と30代男女は「反対」(③と④)と回答した人の割合が高く、4割以上
- ・ 20代は男女間の意識の差が、他の世代に比べて大きい(女性は「賛成」68.2%「反対」31.8%、男性は「賛成」50.0%「反対」50.0%)
- ・ 「反対」と回答した人の割合が最も高いのは20、30代男性で50.0%

【「反対」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

※「③反対」と「④どちらかといえば反対」の合計

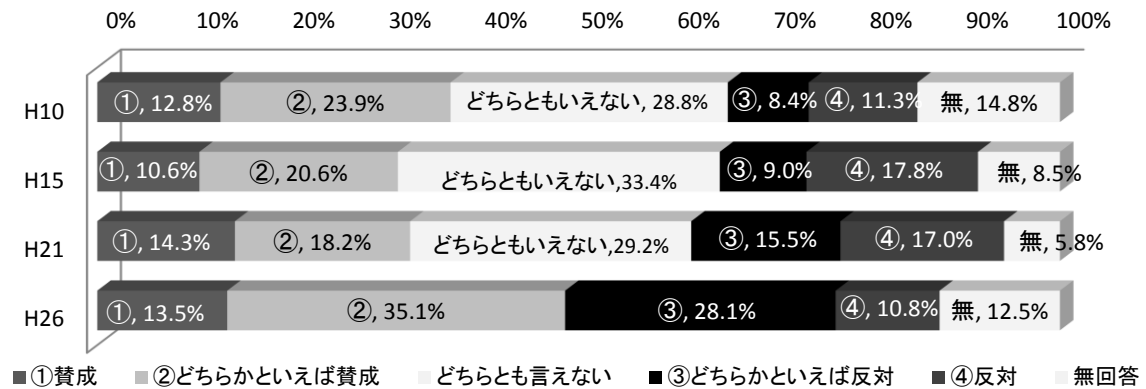


- ・ 女性は20代以外で増加
- ・ 男性は30代以下と60代で増加
- ・ 特に20、30代男性で大きく増加

(3) 保育園や幼稚園の送り迎えやお弁当作りは母親の役目である

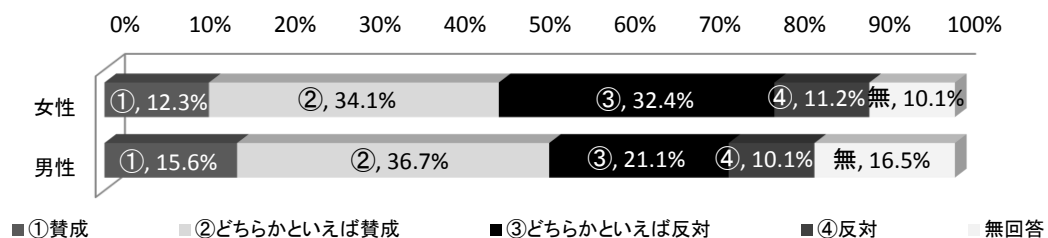
【全体(経年変化)】

※H26は選択肢から「どちらとも言えない」を削除



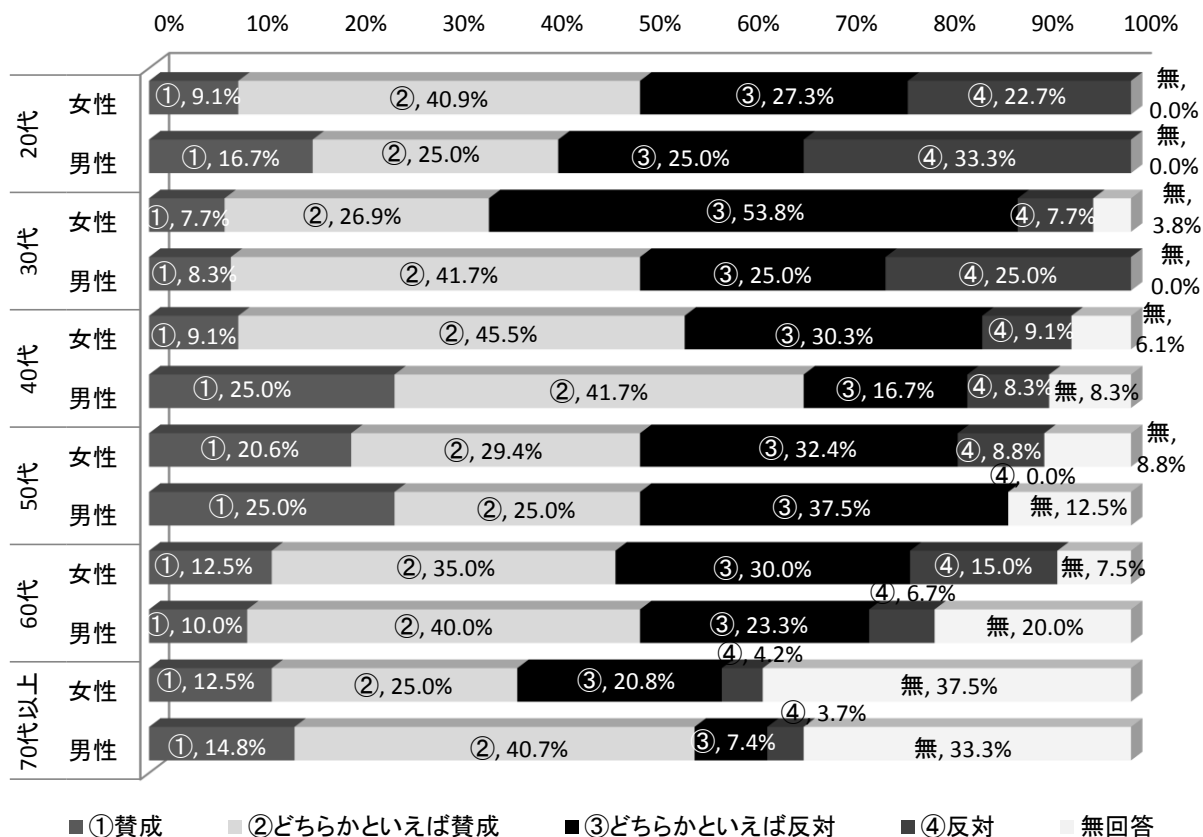
- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は 48.6%
- ・ 「反対」(③と④)と回答した人の割合は増加し 38.9%
- ・ 約5割が「賛成」し、約4割が「反対」

【男女比(H26)】



- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は、女性より男性が高く、女性 46.4%に対し男性 52.3%
- ・ 「反対」(③と④)と回答した人の割合は、男性より女性が高く、男性 31.2%に対し女性は 43.6%

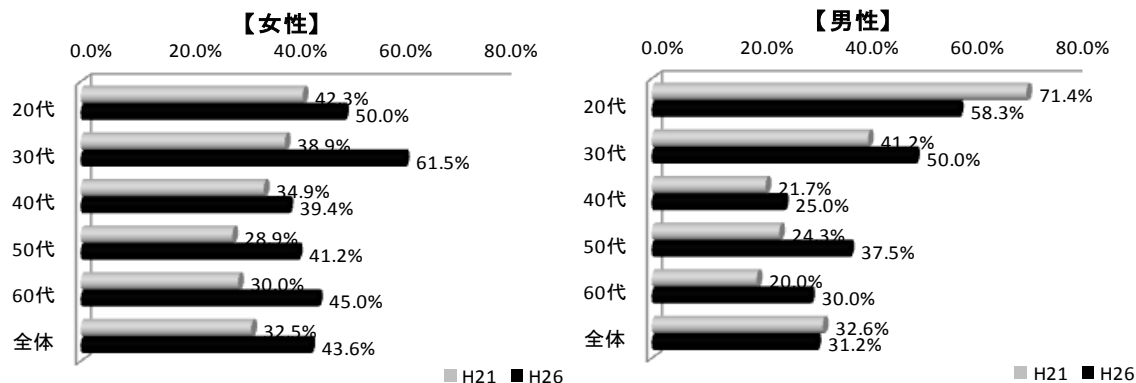
【性別・年代別(H26)】



- 20、50 代以外のすべての世代で、女性より男性の方が「賛成」(①と②)と回答した人の割合が高い
- 20 代は唯一、男性より女性の方が「賛成」と回答した人の割合が高い世代
- 「賛成」と回答した人の割合が最も高いのは 40 代男性で 66.7%
- 「反対」(③と④)と回答した人の割合が最も高いのは 30 代女性で 61.5%。次いで 20 代男性の 58.3%、20 代女性と 30 代男性の 50.0%と続く。

【「反対」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

※「③反対」と「④どちらかといえば反対」の合計

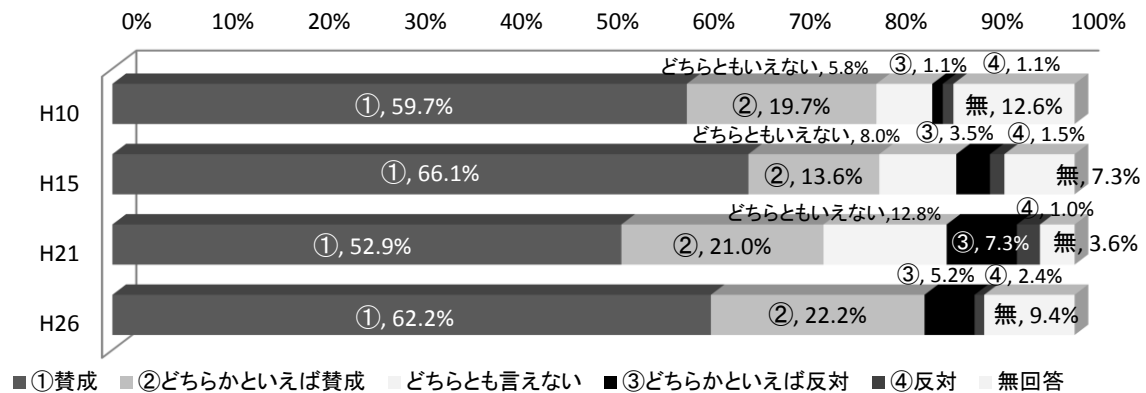


- 男性は 20 代以外のすべての世代で増加
- 女性はすべての世代で増加
- 特に大きく増加したのは、30 代女性

(4) 家事の手伝いは男女平等にさせるほうがよい

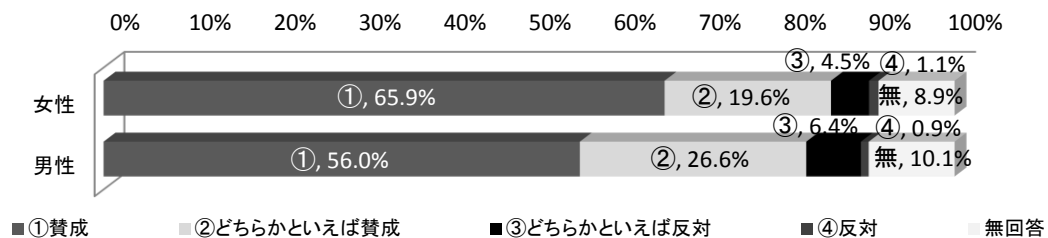
【全体(経年変化)】

※H26 は選択肢から「どちらとも言えない」を削除



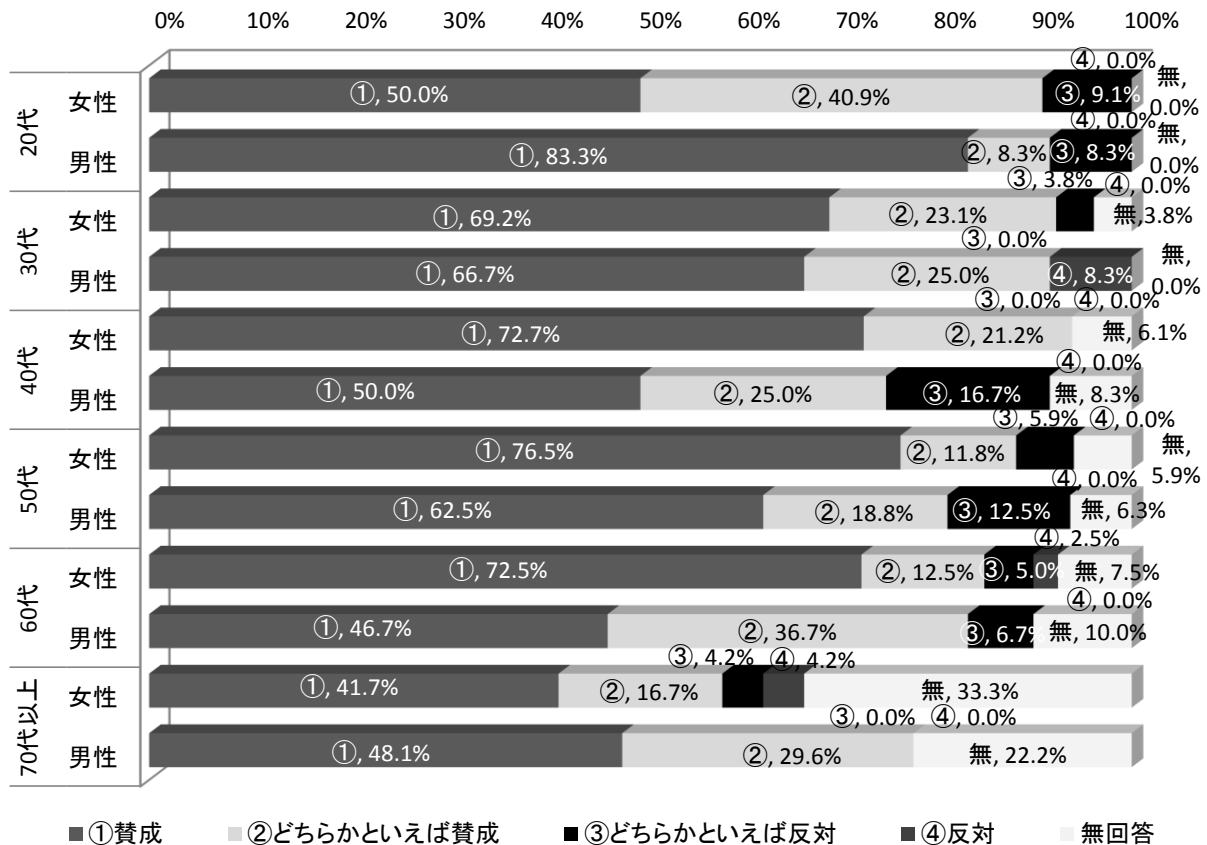
- ・ 「賛成」(①と②)と回答した人の割合は 84.4%
- ・ 「反対」(③と④)と回答した人の割合は 7.6%
- ・ 約8割が「賛成」し、約1割が「反対」

【男女比(H26)】



- ・ 女性と男性の各割合は、ほぼ同じ
- ・ 男女とも「賛成」(①と②)と回答した人の割合が高く、いずれも8割台

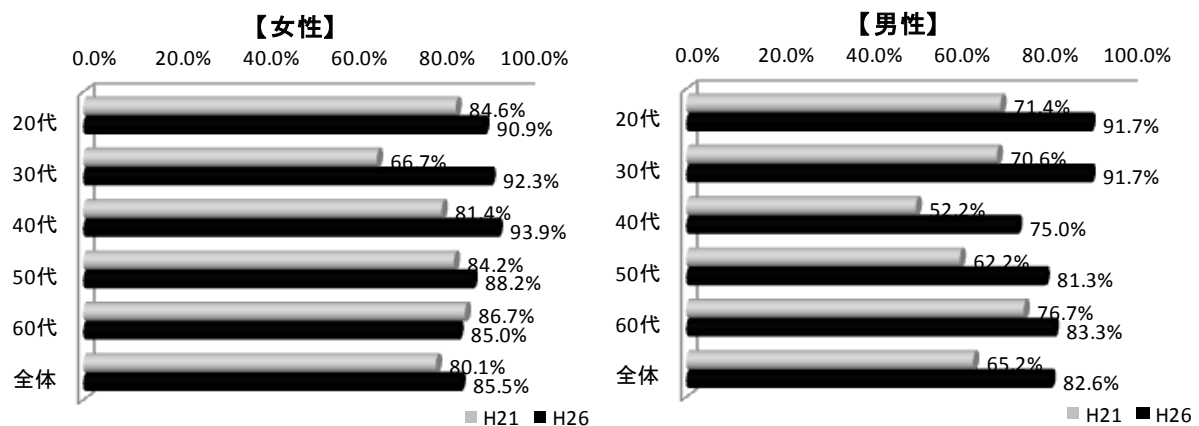
【性別・年代別(H26)】



- ・ すべての世代で男女とも「賛成」と回答した人の割合が大変高い
- ・ 特に 20、30 代は男女とも9割以上が「賛成」(①と②)
- ・ 「反対」(③と④)の割合が高いのは 40 代男性で 16.7%、次いで 50 代男性で 12.5%

【「賛成」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

※「③反対」と「④どちらかといえば反対」の合計

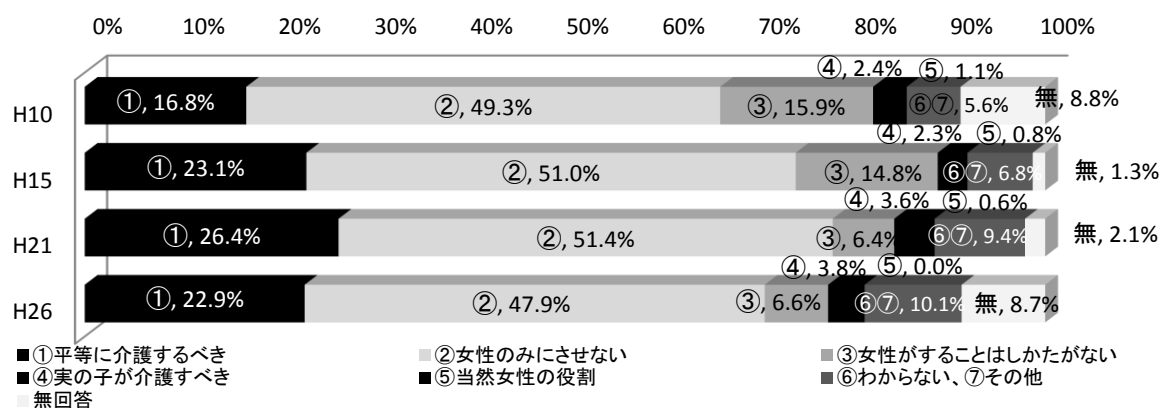


- ・ 女性 60 代以外の男女すべての、年代で増加
- ・ 女性より男性の方が大きく増加

問7 家族が寝たきりなどになった場合の介護について、あなたはどのように考えますか？

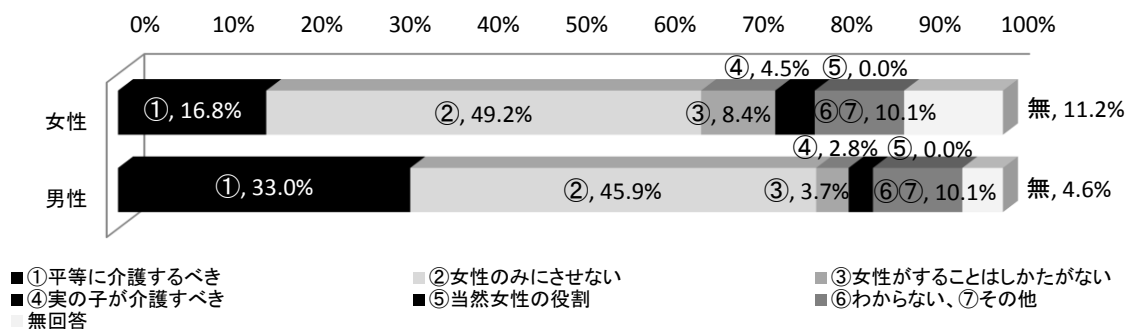
- ① 男女とも平等に介護すべき
- ② 男性も努力して、女性のみには介護をさせないようにするのがよい
- ③ 男性は働いている場合が多いので、女性が介護することはしかたがない
- ④ 男女に関わらず実の子が介護をすべき
- ⑤ 介護は当然女性の役割だと思う
- ⑥ わからない
- ⑦ その他

【全体(経年変化)】



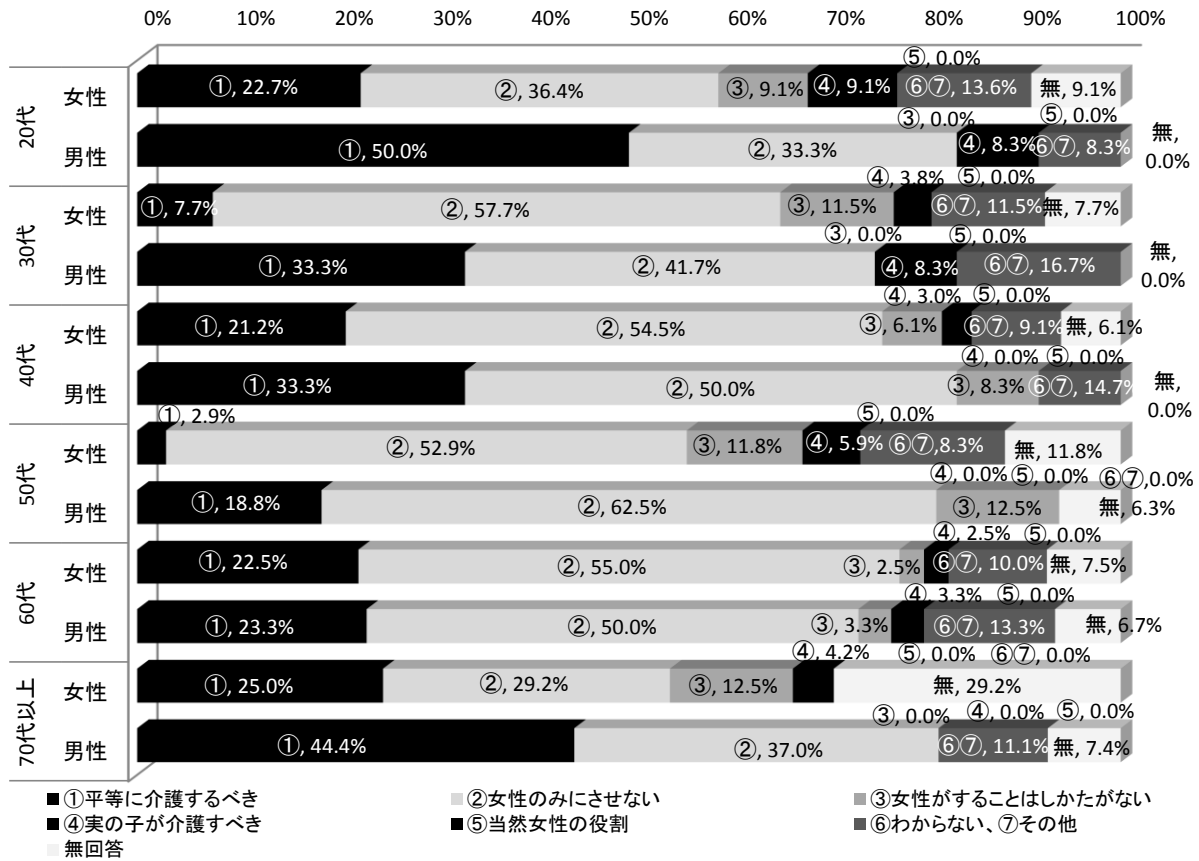
- ・ 「男女とも平等に介護すべき」と回答した人の割合は、平成10年の調査開始時から継続的に増加していたが、今回は減少し22.9%
- ・ 一番多い「男性も努力して、女性のみには介護をさせないようにするのがよい」と回答した人の割合も、継続して増加していたのが、今回は減少し47.9%

【男女比(H26)】



- ・ 「男女とも平等に介護すべき」と考える人の割合は男女間で差があり、女性 16.8%に対し、男性は33.0%
- ・ 男女とも、「男性も努力して、女性のみには介護をさせないようにするのがよい」と回答した割合が一番大きく、ともに5割弱

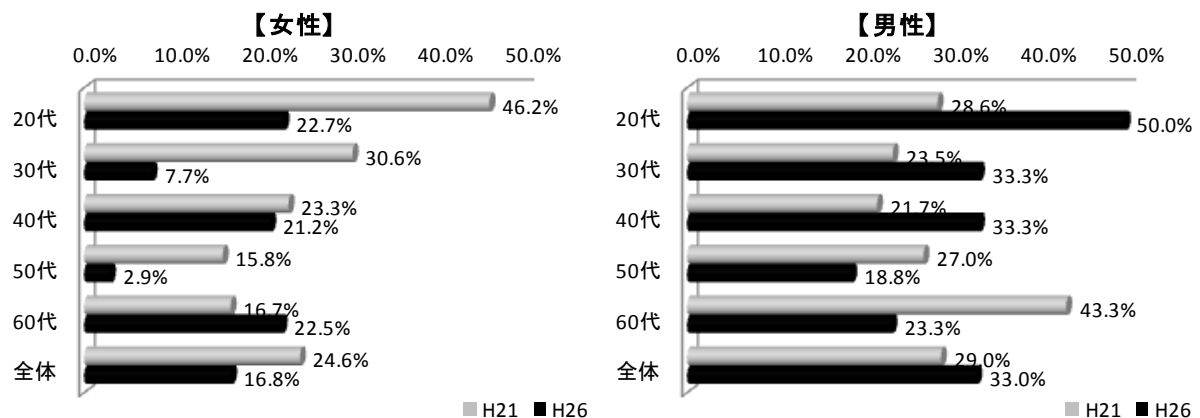
【性別・年代別(H26)】



➤ 「⑦その他」の意見の詳細は、P67 をご覧ください

- すべての世代で、女性より男性の方が「男女とも平等に介護すべき」と回答した人の割合が高い
- 特に「男女とも平等にすべき」と考えているのは、20代男性の50.0%、次いで70代以上の男性で44.4%
- 「男女とも平等にすべき」と回答した人の割合が最も少ないのは50代女性2.9%で、この性別世代は「女性が介護することはしかたがない」と考える割合が他の世代に比べて高い

【「男女とも平等に介護すべき」と回答した割合の前回調査(H21)比較】

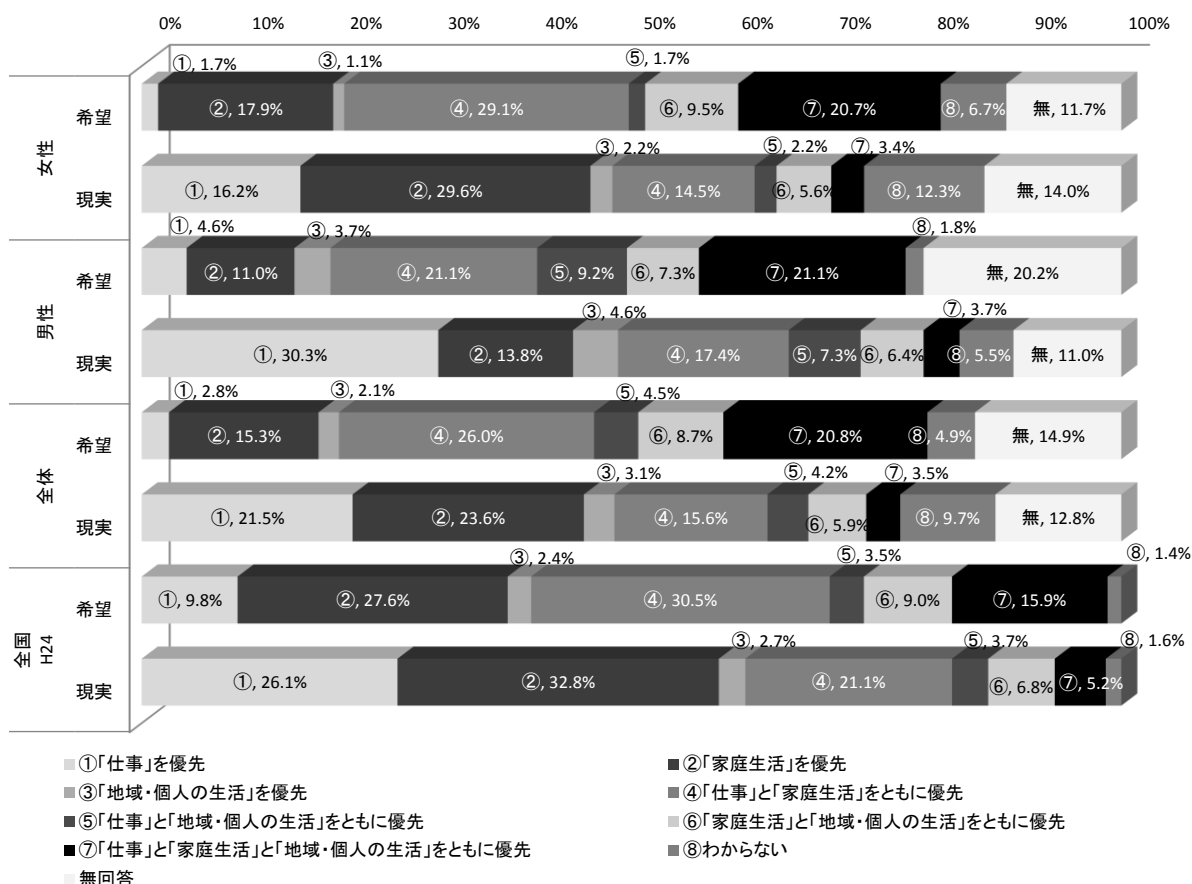


- 男性は40代以下の世代はすべて増加し、50代以降は減少
- 女性は50代以下の世代ですべて減少し、60代は増加
- 大きく増加したのは20代男性
- 大きく減少したのは60代男性と20、30、50代女性

3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問 8 次の項目で、あなたが希望するライフスタイルに最も近いものとあなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか？

- ①「仕事」を優先
- ②「家庭生活」を優先
- ③「地域・個人の生活」を優先
- ④「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑥「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑧ わからない



(女性)

- 希望で一番高い割合は「④『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で 29.1%、次いで「⑦『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で 20.7%
- 現実で一番高い割合は「『家庭生活』を優先」で 29.6%

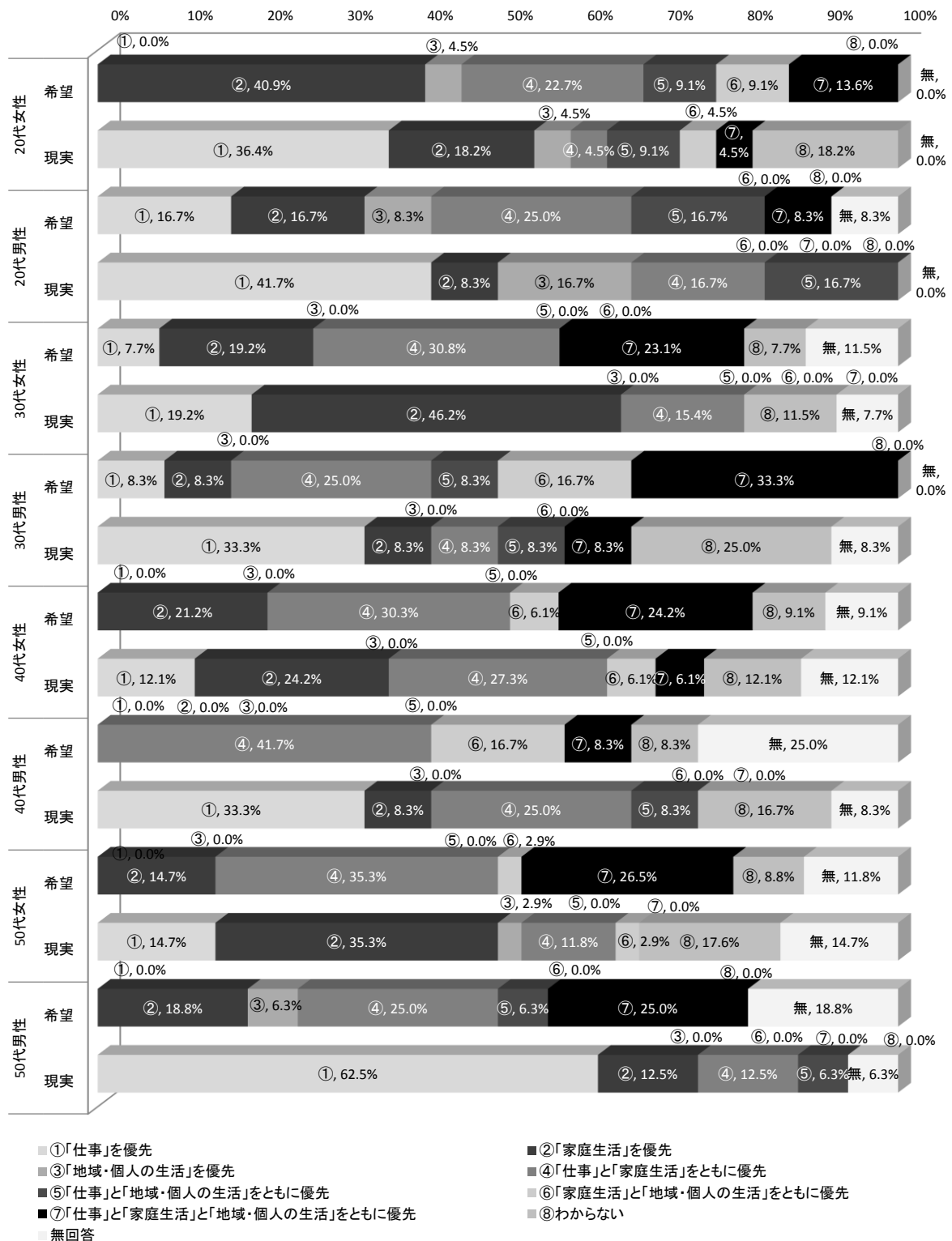
(男性)

- 希望で一番高い割合は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で、ともに 21.1%
- 現実で一番高い割合は「『仕事』を優先」で 30.3%

(全体)

- 全国平均と石狩市民は、ともに希望としては「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が一番高く、現実では「『家庭生活』を優先」が一番高い

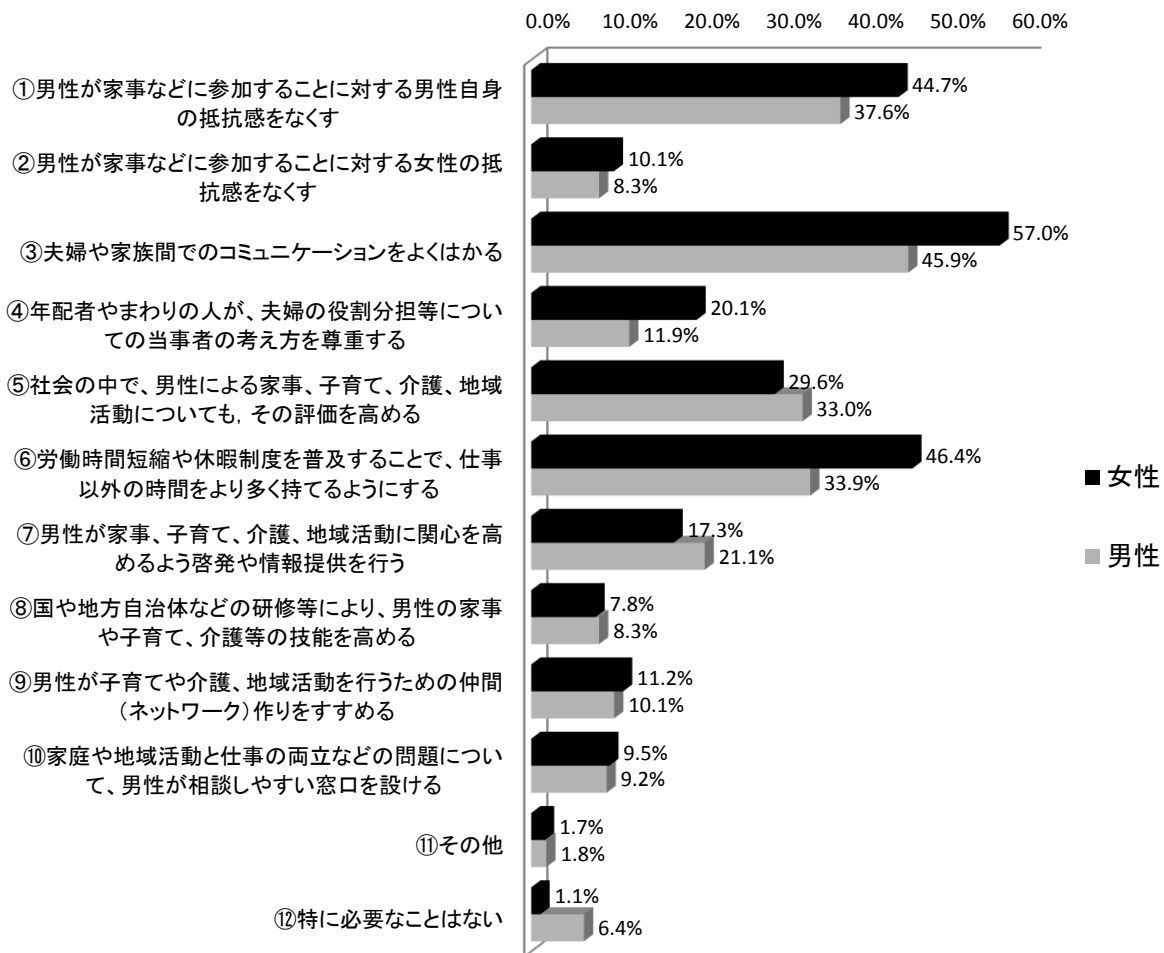
【性別・年代別】 ※20～50 代の就業年代を抜粋



- 希望するライフスタイルとして、20代女性と40代以上の男女はいずれも「①『仕事』を優先」と回答している人は少なく、30代男女も1割以下で、仕事を最優先と考えている人は大変少ない
- 一方、現実には男性は、どの世代も仕事を優先している割合が一番高い
- 特に50代男性は、現実には62.5%の人が「仕事を優先」と回答
- また女性は、30、50代は「②『家庭生活』を優先」と回答した人の割合が一番高く、40代は「④『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と回答した人の割合が一番高いなど、家庭生活を優先している人の割合が高い

問9 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか？ あてはまる番号に○をつけてください。（3つまで）

- ① 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- ② 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- ③ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- ④ 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
- ⑤ 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める
- ⑥ 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- ⑦ 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- ⑧ 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
- ⑨ 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- ⑩ 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
- ⑪ その他
- ⑫ 特に必要なことはない



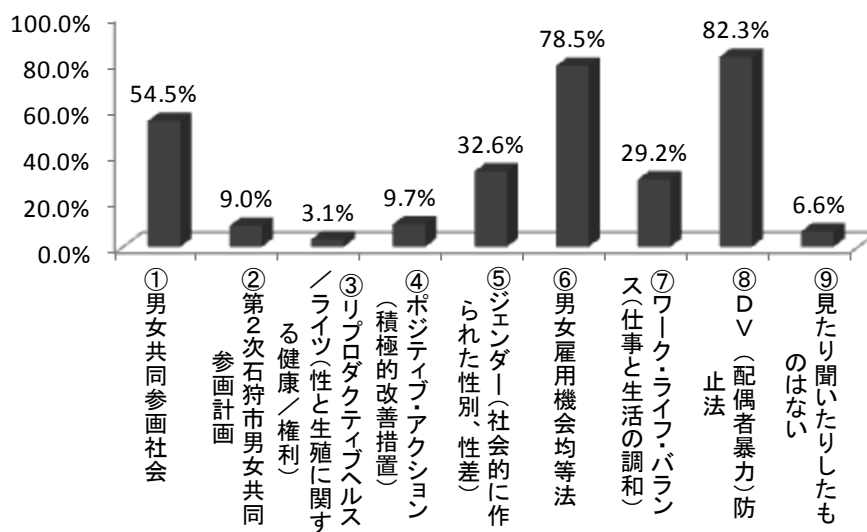
➤ 「⑪その他」の意見の詳細は、P 68 をご覧ください

- ・ 最も多かったのは、男女とも「③夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」で、女性は57.0%、男性は45.9%が選択
- ・ その他多かったのは次の3つで、男女とも多い
 - 「① 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」
 - 「⑤社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める」
 - 「⑥労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」

4. 男女共同参画社会の形成に向けて

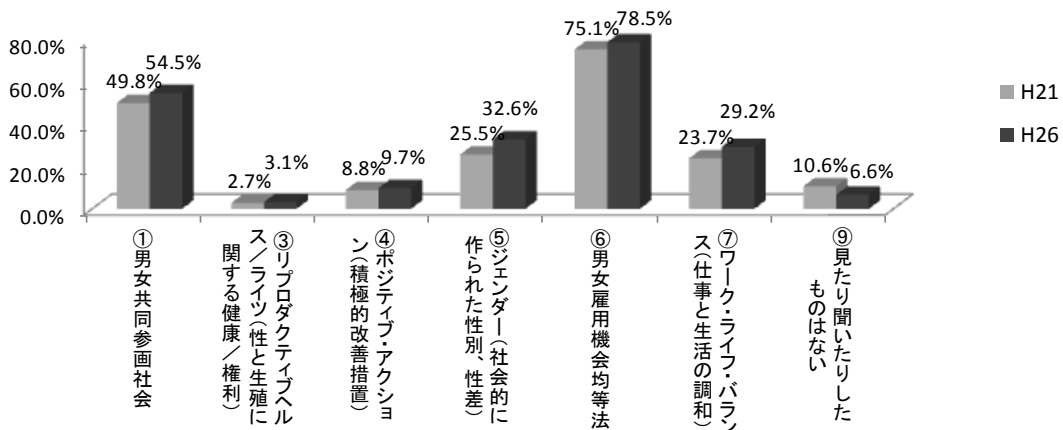
問 10 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか？

- (あてはまるものすべて)
- ① 男女共同参画社会
 - ② 第2次石狩市男女共同参画計画
 - ③ リプロダクティブヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）
 - ④ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
 - ⑤ ジェンダー（社会的に作られた性別、性差）
 - ⑥ 男女雇用機会均等法
 - ⑦ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
 - ⑧ DV（配偶者暴力）防止法
 - ⑨ 見たり聞いたりしたものはなし



- ・ 最も認知度が高かったのは「⑧DV(配偶者暴力)防止法」で 82.3%
- ・ 2番目は「⑥男女雇用機会均等法」で 78.5%
- ・ 3番目は「①男女共同参画社会」で 54.5%

【前回調査(H21)比較】 ※共通して設定した項目のみ



- ・ すべての言葉の認知度は上昇
- ・ 「見たり聞いたりしたものはなし」と回答する割合は減少

問 11 今後、市に力を入れてほしいと考える取り組みを次の中から選んでください。
(3つまで)

- ① 男女共同参画についての学習機会の充実と男女平等意識の啓発
- ② 学校教育での男女平等教育の推進
- ③ 子育て、保育サービスの充実
- ④ 介護の社会化
- ⑤ 男女の固定的な役割分担意識の解消
- ⑥ 女性の資質向上のための研修機会の充実や地域リーダーの育成
- ⑦ 審議会や管理職など政策決定の場への女性の登用促進
- ⑧ 企業や事業主に対する男女共同参画意識の啓発
- ⑨ 地域社会活動での男女共同参画の促進
- ⑩ 女性のための相談事業や情報提供の充実
- ⑪ 女性に対する暴力の根絶と人権意識の啓発
- ⑫ 女性の健康対策や母性保護の充実
- ⑬ 女性の職業教育、訓練機会の充実
- ⑭ 女性の学習や活動のための施設の整備
- ⑮ その他

【 要望の高い順 】

順位	取り組み	割合
1	③子育て、保育サービスの充実	39.2%
2	④介護の社会化	30.9%
3	②学校教育での男女平等教育の推進	29.5%
4	⑤男女の固定的な役割分担意識の解消	26.7%
5	⑨企業や事業主に対する男女共同参画意識の啓発	25.3%
6	①男女共同参画についての学習機会の充実と男女平等意識の啓発	23.6%
7	⑥ワーク・ライフ・バランスの意識啓発	10.8%
8	⑩地域社会活動での男女共同参画の促進	9.7%
8	⑬女性に対する暴力の根絶と人権意識の啓発	9.7%
10	⑧審議会や管理職など政策決定の場への女性の登用促進	8.7%
11	⑭女性の健康対策や母性保護の充実	6.9%
11	⑮女性の職業教育、訓練機会の充実	6.9%
13	⑦女性の資質向上のための研修機会の充実や地域リーダーの育成	6.3%
14	⑪女性のための相談事業や情報提供の充実	3.8%
15	⑫男性のための相談事業や情報提供の充実	1.7%
16	⑮その他	1.4%

➤ 「⑮その他」の意見の詳細は、P 68 をご覧ください